

もったいない・おかげさま・ほどほどに、が環境と人間を育てる

も う

M・O・H通信

M・O・H communication

29号

2010

Autumn

特集：礎「共生の倫理」



「能姿 石橋(しゃっきょう)」2008年 レリーフ 41x80cm



「母子像」
2007年 レリーフ
23x18cm

Tesso Mori

森 哲荘

木彫り一筋47年。お孫
さんと一緒に



「M・O・H」のマーク=牛

牛は環境の象徴ともいえます。牛糞はメタンガスになり、肥料にもなります。大地を作り、食物を育て、生物を養います。私たちは命の源ともいえる、牛を「MOH」のマークとし、循環型社会の象徴とします。

★ M・O・H通信の役割★

持続可能で豊かな循環型社会を築く社会人の意識を向上するためMOH通信は情報を発信し交流を続けます

- | | | | | |
|---|---|--------|-----------|----------------------------|
| M | → | もったいない | 循環 | 他の生命を奪って得たものを使わせて頂く |
| O | → | おかげさま | 共生 | 人は一人では生きられない、環境によって生かされている |
| H | → | ほどほどに | 抑制 | 欲はほどほどに、良き環境を作り上げるために |

contents

目次

特集「礎」— 共生の倫理

- M・O・H対談 COP10開催—生物多様性は人類の「財産」
企業経営と地球環境、より深まるその関係 大久保 尚武 & 森 建司 …… 5
- M・O・H座談会 人、未来、夢へ、つながる仕事を育もう
“6次産業化”キラリと光る生産者たち
秋竹 新吾 & 川瀬 利弥 & 吉田 道明 & 森 建司 …… 14
- M・O・Hレポート 1
畑は第一の調理場——素材から食のあり方を考える 横本 清武 …… 26
- M・O・Hレポート 2 “馬鈴薯栽培「やめられへん」—カルビー(株)『しがじゃが』の魅力
主力商品で地域貢献を目指す—
沖本 和幸 & 山方 政雄 & 川崎 滋生 & 芝野 康雄 …… 35
- 寄稿 プレイベント in 「あづち信長まつり」
ダンボール安土城築城 中西大輔 …… 45
- 「山がピンチ=人間もピンチ」(漫画) オノ ミユキ …… 49
- 愛する風景
猫の嫁さま 畑 裕子 …… 51
- 日本の精神
「日本」について学ぼうその三 井上 昌幸 …… 53
- 商家の家訓の話 第14回
陽徳から陰徳へ、塚本定次・正之兄弟の治山治水事業 末永 國紀 …… 55
- 環人会ツアーVol.13
新緑の余呉 魅力まるかじりツアー 西村 和洋 …… 57
- イベント紹介
「秋の夜長を楽しむタベ」 …… 60
「田舎ぐらしフェスタ」 …… 61
「持続可能社会を展望する」 …… 62
「ドキュメンタリー映画「空想の森」上映会にご参加ください！」他 …… 63
- 里のお話
「豊年太鼓踊り」三山 元暎 …… 65
- 本の紹介 …… 66
- 講演日記 …… 67
- M・O・Hなことば …… 68
- 通信概要 …… 69
- 読者の声 …… 70

表紙写真

辻村耕司

産卵のために湖岸に集まる
アユ。近江舞子にて



■ 礎 — 「共生の倫理」

林
礎

本年十月、「生物多様性条約の第十回締結国会議（COP10）」が名古屋で開催される。

また、M・O・H通信29号のテーマは「共生の倫理」でもあり、この問題について改めて考えて見たい。

言うまでもなく、あらゆる生物は共生する事によって生かされている。人類に限ってこの原理から外れる事は有り得ない。したがって、これだけ地球上に繁殖した（？）人類にとって、「生物多様性」を守っていく責任は重大である。その意味で「生物多様性条約」が締結され、世界の共通テーマとしてその実践が求められる事は当然のことであり、またおおいに歓迎すべきことである。

この機会に、われわれが生きている限り、生物多様性の根幹としての共生社会の原点に立ち返り、「しなればならないこと、してはならないこと」をしつかり認識し、改めて自分の人生観・倫理観としてもあるいは社会の常識としても、「共生の倫理」を確立していきたいものである。

では「共生の倫理」とは何だろう。これは「生物多様性」広義の解釈ととられるかも知れないが、もっと身近な人間社会においても、「生物多様性」の問題と同じく、共生社会の倫理と断絶した行動があることを見逃してはいけない。

昨今のマスコミを賑わせている、兎

共生の倫理

森 建司

童虐待、家族殺人、所在不明の老人問題。これらの想像を絶する残酷な事件が、頻発しているのは一体どういうことだろう。人間が社会に共生して生きていく最小の単位は親子であり、家族である。親が子に愛情を注ぎ子供のためには自分を犠牲にしても守る、これは人間のみならず生物の本能でもあ

る。成人した親子の間でも同じだ。子が育ててくれた親の愛情に応えて親孝行をする。子が親につくす、これは生物の本能とは言えないにしても、人間社会にとって最低限の倫理である筈だ。

マスコミはこのような事件でも、まず行政の管理責任や教育の在り方を問う。しかし、このような倫理の断絶によって引き起こされる事件は、一時的な行政の管理や（法律や）教育で解決できる問題ではない。もっと長期的で決定的な、倫理観の大革命が必要である。人が行動を起こすときの判断基準が倫理であるといわれているが、最低限の倫理観が掻き消され、あるいは誤った倫理観が芽生えかけている、このような時こそ経済成長一本槍の世のリーダーたちも、その過ちに気付き、人間の存在の根幹に関わる「共生の倫理」再構築に強力な信念を持って取り組んでいただき、未来に希望の持てる新時代・持続可能社会の構築に当たっていただきたいものである。

大久保 尚武

経団連自然保護協議会 会長
積水化学工業株式会社 会長



森 建司

循環型社会システム研究所 代表

●対談

〈礎「共生の倫理」— ① 〉

企業経営と地球環境、 より深まるその関係

COP10開催—生物多様性は人類の「財産」

経団連自然保護協議会の会長を務める積水化学工業会長・大久保尚武さんに、森代表がお話をうかがいました。COP10の開催で、生物多様性に注目が集まる今、企業は何を考え、なすべきなのか。経済人として、これまで積極的に自然保護活動に取り組んでこられた大久保さんの目に、持続可能な新しい社会、新産業や企業像は、どのように映っているのでしょうか。

■ 積水化学工業 本社／東京都港区

■ 2010年7月

■今年10月、COP10開催

森 COP10の開催（10月11日）が、いよいよ間近に迫ってきました。しかし私は、生物多様性という言葉をいかに解釈すべきか、これがどうも釈然としないのです。たとえば、滋賀県が漁業被害や竹生島の森林被害を抑えるためにカワウを駆除するのは、生物多様性の保全と真っ向からぶつかる行為になるのでしょうか。国や企業、自治体や地域住民など、それぞれの立場や状況で、多面的な解釈がなされると思うのですが。

大久保 生物多様性とは、バイオダイバーシティ（Biodiversity）という英語を翻訳して生まれた言葉です。結局は人間が創り出した言葉ですから、完全という訳にはいかないかもしれませんが、自然保護協議会の中でも、もっとわかりやすい言葉はないのかと、昔からそういう声もあります（笑）。

大久保 私も同感です。まだ低炭素化と言われた時のほうが、イメージしやすかったですね。

低炭素化というのはポイントが

一つですから、案外わかりやすいんです。しかし、生物多様性というのは、文字どおりまさに多様であって、全体像をピシヤリと抑えた言葉というのが、なかなか出てこないのです。

森 確かにそうですね。逆にひと言で抑えてしまうと、それに該当しないものが、多々ありそうですね。

大久保 生物多様性とは、大きく三つのことを言っています。一つ目はいわゆる「種の多様性」で、様々な生物種の存在です。二つ目が「遺伝子の多様性」で、同じ種でも持っている遺伝子が異なるものがあります。その中で、遺伝子の優劣もあるのですが、大切なのは多様性を守ることだと。そして三つ目が「生態系の多様性」で、私自身はこれが非常に大切だと思っています。

森 つまり、三つの階層で生物の多様性を考えるということですね。しかし生態系とは、広い意味で地球環境とほぼ同意語という気もしますから、やはり言葉の表す範疇がとて大きいですね。

大久保 ええ。ですから経済界からアプローチすべきは、三つ目の生態系の

多様性についてだろうと私は思っています。自然保護活動に、国や自治体など一つの主体が取り組むだけでは、なかなか前に進まないということは、はっきりしています。自然そのものを守るといって、企業や市民などの貢献が求められているのです。経団連の自然保護協議会が設立されたのは、今から18年前の1992年のことでした。当時、経団連の会長であった平岩外四さん（故人・元東京電力会長）は、その頃から今後の企業活動にとって、地球環境や自然保護といった問題が、非常に重要になってくるだろうと考えておられたのです。

森 先見の明ですね。その平岩さんの考えを源泉として、今に至っているのですね。

■生物多様性の保全に必要なもの

森 私どもの地元には長浜バイオ大学がありまして、我々地元企業は、学内で生まれたシーズを、地域の新産業に

育てたいと努めています。琵琶湖がありますから、やはり環境を切り離しては考えられません。ですから、微生物産業や農業、漁業などの活性化を狙っているのですが、こうした産業は突き

詰めていくと、生命の根源に触れるような世界です。品種改良や遺伝子操作など、生物多様性の概念とは、相反するものではないかとも感じます。だからこそ、自然の摂理や生命といったも

のに対し、敬意を払い、謙虚になる必要があると強く思うのです。

大久保 今の社会を見ますと、足るを知るという気持ちが薄れてしまったようにも思います。しかし、昨年の10月にCOP10の一年前イベントとして「神戸生物多様性国際対話」が開催（主催／環境省、共催／経団連自然保護協議会）され、政府や国連、民間企業やNGOの関係者、研究者らが世界各地から集いました。そして、最後の議長総括は、倫理・科学・経済、この三つの調和が今後人類が生きていくためには絶対に必要なのだ、という意見を盛り込んでまとめられました。私は、これは非常に優れた考え方だと思います。私たちの倫理観、つまり、もつたいないですとか、足るを知るといった気持ちがあるはずベースにあつてこそ、生物多様性の保全が実現されるのではないでしようか。

森 なるほど。それと同じ思いを、私たちは「共生倫理」と呼び、社会に訴えかけているのです。



■ **自然に学ぶ謙虚さ**
—— **人類のテーマとして**

大久保 もちろん科学の力というのも、絶対に必要なのですが、自然に潜む科



倫理・科学・経済の調和が大切 (Ⓔ大久保氏)

学には、驚くべきものがあります。たとえば蚕が繭を作るのだから、人間が人工絹糸一本を紡ぐのに、どれだけのエネルギーを費やしているか。それを考えればわかりますよね。科学の力と

ともに、自然から学ぶ謙虚さが大切なのです。

森 私は、その謙虚さというのが、大きな企業になればなるほど、持つのが難しいと思っていました。

大久保 そうですか。たとえば私どもの会社ですと、8年前から『自然に学ぶものづくり』というコンセプトで、国内の大学や研究者らに対する研究助成プログラムを行なっています。全国から、毎年250件ぐらいの応募があり、そのうち1年につき15件程度しか助成(※最高限度300万円/件)できないのですが、研究テーマを拝見していますと、自然に学ぶ技術等を研究しようという人の数が、物凄く増えています。

森 そういった動きの中から、将来、新しい経済が生まれる可能性を感じますね。しかし、将来的に事業化できそうなシーズを見出すというのは、なかなか困難な仕事ではありませんか。

大久保 もちろん簡単ではありません。最低でも十年程度のタイムスパンになると思いますし、自然界の機能をダイレクトに利用して、技術的な成果を得る



農業・漁業を生き活きとさせること（大久保氏）

ということからスタートしたとしても、かなり長い時間を費やした取り組みになろうかと思えます。しかし仮に人類のテーマという、とても長い視野に立つならば、やはり今ここでやっておくべきだろうと、私はそう思うのです。

森 とても共感できます。私は今、大久保さんが言われたような思いを、中小企業の経営者という立場から訴えた

くて、『中小企業にしかできない持続可能型社会の企業経営』という本を書きました（笑）。中小企業だからこそ担える産業というのがあると思うのですが、それは六次産業、ひいては十次産業という業態ではないだろうか、今、こういう考え方が、地方でとても注目を集めているのです。第一次産業に加工や販売や研究、さらには教育と

いった要素までをプラスし、すべてを内包した産業として、地方経済を自立へと向かわせるのです。

大久保 なるほど。森さんは中小企業

だからと、謙遜して言われますが、そういった産業こそ社会にとって重要なのだと思います。特に農業や漁業の問題は、我々の暮らしにすぐさま響いてきます。全国津々浦々の地域と密着した産業ですから、それをどれだけ生き生きとしたものにできるか、まさに社会の基幹を担っていくものだと思います。

森 我々の地域の大学でも、近い将来、農学部の新設を意識して、新たな施設を設ける動きが出てきました。地方には、農業分野への新規参入を考える中小企業がいくつもあります。大学と地域の農商工が連携して、何とか地方の活性化を図ろうとしているのです。今では、植物工場が社会の注目を浴び、大手企業の進出も見られるようですが、地方では、目の前に畑が広がっていませんから。工場という発想は浮かんてこないし、なかなかピンとこないのですよ（笑）。

大久保 私も植物工場の前に、耕作放棄地をどうにかするほうが先だろうという気がします。農業や漁業という産業そのものに様々な価値を付加し、いかに活性化していくか。難しいけれども、人間のテーマとして考えれば、ぜひやるべきです。

産業構造プラス倫理観で、新しい時代へ

森 余談かもしれませんが、この前、農業経済の第一人者を講師に招き、講習会を開催しました。講師曰く、農業とは盆栽を育てるのと同じだということです。すると、参加者からワッと反論の声がออกมาして、「自分たちは農業を、産業として捉えたいという思いで勉強会を開いている。先生が言っているのは、趣味や酔狂に留まれということか、農業で金を儲けようとするなということか」と、非難轟々だったのです。

大久保 聞きようによっては、そうもとれるかもしれませんが、真意は別のところにあったのでしょうか。

森 ええ。先生は、盆栽に注ぐ愛情こそ、何物にも変えがたいものであって、それが基本にあってこそ利益がついてくるのだと。つまり、経済的な算段だけで成立する時代ではない、ということが言われたかったです。

大久保 なるほど
そうですね。

森 それで私は思ったのですが、生態系に話が及ぶとき、やはり愛情のようなものが必要になってくると思うのです。しかし、現在の産業構造下で愛情だなんて、まったくミスマッチだと大半の人がそう思うでしょう。大久保さんほどのように思われますか。

大久保 森さんが

産業に愛情が必要 (森氏)

言われる愛情とは、言い換えれば一種の倫理観だと思っております。現在の産業構造における工業化は、すでにある意味で壁にぶち当たっていますから、この先は自然や地球環境と譲り合いながら



生きていくのは必至なのです。自然と
いうのは非常に奥が深く、人間があれ
これ手を打つても、人知の及ばないこ
ころがあります。やはり倫理観が我々
の側になれば、今後の社会は成り立
たないということになると思います。

森 大企業としてその倫理観を發揮す
るならば、先ほどお聞きした研究助成
の他に、どうした手法が有効だと思わ
れますか。

大久保 たとえば自然保護活動につい
て、政府や自治体関係であるとか、企業
そのものだとか、口では色々なことを
言います。しかし、実際に現場で汗を流
して活動に取り組んでいるのは、NG
OあるいはNPOといわれる方々なの
です。私は、企業としては、そういった
方々が長年の活動を通じて培われた知
見を、フルに發揮してもらえようと思
います。ですから、経団連もNGOと積
極的に手を組んでいますし、私どもの
会社でも、NGOの方々と様々なスタ
イルでの協働作業を行っています。滋
賀県の高島市でも、この8月に「KO

DOMOバイオダイバシテイ国際湿地
交流in琵琶湖」という催しを開催す
る予定です。これは、昨年から2年計
画で行ってきた「KOMOMOバイオ
ダイバシテイ（生物多様性条約と生き
ものを守る子どもたちの運動）」の、
いわば集大成となるものです。

森 やはり水に縁の深い企業というこ
とで、琵琶湖に目を向けていたのだ
のは、地元として嬉しいかぎりです。

大久保 それに私は、学生時代は瀬田川
でボートを漕いでいましたから。琵琶
湖は第二の故郷のようなものなのです。

日本の人口減少を、 経済としてどう捉えるか

森 最後に地球人口の問題に触れてお
きたいのですが。地球人口が今後も爆
発的に増加すると予測される一方で、
日本は人口減少の問題が、徐々に深刻
化していくだろうとされています。こ
のことを大久保さんは経済人としてど
う考えですか。消費が減少するから
生産も減って構わないと、そうはいか

ないものでしょう？

大久保 経団連の報告では、日本の人
口減少は年々加速し、2039年以降に
は、毎年100万人以上が減少するで
あらうと予測されています。経済人と
して、これは大問題だと捉えています
が、すでに自動車や住宅等の分野では
需要減少の兆しが見られつつあります。
そうした中で、どのような社会をつく
っていくのか。私はそれこそが最大の
テーマだろうと思うのです。そして私
自身は、そうした状況こそ、絶好のチャ
ンスだと申し上げています。

森 それは意外なお言葉です。

大久保 様々な地球環境問題が発生し
ている中で、最大の原因は地球人口だ
ともいえます。その人口が日本の場合
は何も手を加えずとも、毎年減少して
いくのですから。そこでいかにして、
豊かで平和な社会を築き上げるか。い
つてみれば、世界に先駆けて日本が最
初に新しい局面を体験するのです。人
口、生産、消費のいずれもが減ってい
く中で、本当に幸せな社会は一体どう
すれば築けるのか。そのモデルづくり



「もったいない・おかげさま・ほどほどに」社会を作るチャンス (大久保氏)

をぜひ日本の国がやれたらと、私はそう思います。そのために我々は相当の知恵を絞らなければなりません、その際に重要なのはやはり倫理の問題でしょう。

森 まったく同感です。

大久保 それこそまさに、「もったいない、おかげさま、ほどほどに」の社会をつくる絶好のチャンスと考えることができるのではないのでしょうか。

森 私は正直、感動しました。まさか東京のご真ん中で、大久保さんのような立場の方からこういうお話が聞けるとは（笑）。地方の場合は、多少経済が縮小しようとも、地産地消のスタイルでいけば何とかやっていけるのです。しかし、果たして都市はどうでしょうか。都市に暮らす人々の意識や生き方の変化、さらに

はその変化に呼应して、経済や政治も変わらなければ社会は滅びてしまうのではないかと、私たちはそう問題を提起してきました。しかし、東京に来て、都市の在り様を目の当たりにしますと、到底無理なことではないかという気持ちにもなるのですよ。

大久保 経済人として、経済成長を妨げるようなことは口にできないと、そんな風潮はこれまでにあったかもしれませんが。しかし、経済成長だけを目的にした経済活動はもう限界を迎えているのは明らかです。その一方、それでも幸せになれる道はあるのだということも明らかでしょう。最近中央の経済界でも、こういった考え方をする人が増えています。

森 たとえば、企業が幸せになれる道とは、大久保さんほどのようにお考えですか。

大久保 社員一人ひとりに対しては、数ある企業の中から、当社を選んで入社してくれたのですから。そこから努力して仕事に励み、幸せになってもらわなくては、会社として困るわけです（笑）。

きちんと生き甲斐を持って、幸せを感じながら、同時にこれからの社会を生きる一員として、どう行動すべきか。そのために相当の知恵を絞らないといけません。

森 まず消費が供給を上回ることは有り得なくなるのですから、これまでの概念が通用しない場面に多々遭遇することになるでしょうね。

大久保 その中で、良い社会をいかに築くか。簡単なことではありませんし、それこそ明治維新に匹敵するぐらいの、いわば社会革命だと思います。

森 そうなのです。私も、これは社会革命なのだと言っているのですが、皆さんからは、そんな意識の変化は無理だと返されます。しかし、ひと昔前のゴルフの会員権だって、バブルの絶頂期には6000万円、それが今は45万円になっている実例があると(笑)。それを思えば、人間はどんな変化にも案外と対応できるものですと、申し上げているのです。

大久保 森さんがこうした啓発活動に取り組んでおられることは、以前から

存じ上げていましたが、本日お会いして、確かに今、社会に必要な動きだと感じました。今後も益々のご発展を期待しています。

森 そう言っていたけると、力強い

自然を好きになる 大久保尚武

● おおくほ なおたけ 1940年、北海道生まれ。1962年東京大学法学部卒業。在学中、ボート競技の日本代表としてローム五輪に出場。同年に積水化学工業入社。1999年代表取締役社長に就任、2009年3月から現職。2002年から経団連の自然保護協議会会長。同協議会の自然保護基金が支援した国内外のNGOらによるプロジェクトは、これまでに約900件を上回る。

● 経団連自然保護協議会 社団法人日本経済団体連合会の特別委員会として1992年に設立。当時の名称は、経団連自然保護基金運営協議会。1993年から基金による国内外NGOの活動支援を開始。企業による同基金への募金活動やN

かぎりです。本日はどうもありがとうございました。ございました。

大久保 ありがとうございます。

GOとのネットワーク形成、支援した自然保護プロジェクトの視察等を活動の柱とする。2000年に経団連自然保護協議会に改組。

● 積水化学工業株式会社
<http://www.sekisui.co.jp>

勇氣凛々 いの壁を打ち破れ 森 建司

● もり けんじ 1936年滋賀生まれ。滋賀県立長浜北高校卒業。新江州(株)代表取締役会長。滋賀経済同友会特別幹事、滋賀経済産業協会相談役など。著書『「吃音はなある」遊タイム出版』『「循環型社会入門」新風舎』『中小企業にしかない持続可能型社会の企業経営』サンライズ出版。



秋竹 新吾 (上左)

株式会社 早和果樹園 代表取締役社長

川瀬 利弥 (上中)

株式会社 びわ鮎センター 代表取締役社長

吉田 道明 (上右)

吉田農園 代表



森 建司 (下)

循環型社会システム研究所 代表

● M・O・H座談会

〈 礎「共生の倫理」— ② — 〉

“6次産業化” キラリと光る生産者たち

人、未来、夢へ、つながる仕事を育もう

和歌山県の有田みかん、琵琶湖の鮎、湖北の米と、それぞれの地域の農水産業の担い手の中でも、6次産業化のパイオニア的存在として活躍するお三方にお集まりいただき、森代表がお話をうかがいました。経営の多角化を実行に移すために、一番大切なものは何なのでしょう。

■びわ鮎センター内「鮎茶屋かわせ」／長浜市

■2010年7月

◇吉田農園

農家の次男・吉田道明さんが、カメラマン、料理人を経た後、30歳で農業に飛び込み、98年に開園。現在の耕作面積は36ヘクタール。うち、12ヘクタールで無農薬米を育てる。同農園のブランド米「長寿米」は、06年の「米・食味鑑定協会」のコンクールで金賞を受賞。

生産者の思いを届ける

〈吉田農園〉

森 県内の大学でも、将来的に農学部の新設を意識した動きも見られ、学も加わった農商工の連携をめざしておられます。それに対し、地域の中小企業の関心も高まりつつあるのですが、特徴的なのは、1次産業を足がかりとして、6次産業への広がりを期待しておられる点です。私のまわりでも、どこに行けば6次産業について、話が聞けるのかという声が多く聞かれます。そこで今日は、すでに6次産業の道を歩んでおられる皆さんのお話をお聞きし

たいと思います。

編集部 それでは自己紹介を兼ねて、これまでの道のりや現在の状況など、ざっくばらんにお話ください。

吉田 僕は兼業農家の次男ですが、30歳になるまで農業への興味は一切無く、父親も後を継げとは口にしたことがありませんでした。

それなのに農業を志すようになったのは、環境問題を知って勉強するうちに、自分の手で特別なお米を作ってみたいと思うようになったからです。そのお米をできるだけ大勢の人に食べて欲しくて、耕作面積が増えても栽培可能な、誰にでもできる農法でのお米づくりをめざしています。今は36ヘクタールの田んぼを作っていますが、そのうち12ヘクタールは無農薬でお米を育てています。

うちのお米を食卓にお届けしたい(吉田氏)



森 販売も手がけておられるのでしょうか。

吉田 はい。これまで、お米の価値を決める相手は農協さんでした。基準は、品種と等級と産地の三つで、生産者の存在は蚊帳の外でした。しかし、生産者の“人となり”がわかるような売り方こそ、一番大切ではないかと考え、口コミで広がるような形で販売を開始しました。

森 ささほど言われた特別なお米とは、どういってお米なのですか。

吉田 農家の方が時々、「田んぼの中でもこの田んぼでとれる米が一番おいしい。だから、飯米用(自家用)に残しておくんや」と言われることがあります。他の田んぼより少し手間をかけても、美味しいお米がとれるように労力を注がれるんです。でも、消費者の人たちだって、その田んぼのお米が食べたいと思われまますよね。僕たち生産者側には、全ての田んぼでそういうお米を作り、消費者に提供する気持ちが必要ではないかと思えます。消費者も家族の一員という考え方で、その気持ちをお米と一

緒に届け、それで生産者と消費者が一緒になって農業の発展を支え、本当に良いものを作っていければと思います。編集部 これから先、さらに耕作面積を広げたいとお考えですか。

吉田 はい。自分たち家族が食べる分と同じような思いを込めて、販売する分のお米を収穫しようとすると、どうしても大量生産の仕組みが必要です。それで、面積を拡大しやすい農法を実践しているのですが、従来の兼業農家さんの米づくりと比較すると、180度違う方法ではないかと思えます。森 気持ちに技術や仕組みが伴ってこそ、夢を実現できるというものです。



「レンジDEかきもち」

◇早和果樹園

地元の230戸の契約農家とともに、和歌山県が誇る高級ブランドみかん「味一」の生産と加工に取り組む。従業員31人の会社、79年に設立。文中の「味一しほり」をはじめ、3Sサイズのみかんをシロップに漬けた「てまりみかん」や、みかんポン酢の「みかポン」などヒット商品を次々に開発。

組織化で、気持ちに変化 〈早和果樹園〉

編集部 まるで品評会のようにですが、早和果樹園さんの「味一しほり」をいただきますと思います。

秋竹 有田みかんの100%ストレートジュースです。

森 濃厚で爽やかな飲み口ですね。有田みかんの産地は今、どのような状況なのでしょう。

秋竹 私自身、これまで40年以上みかんを作ってきましたが、その間、1次産業だけで成り立つのは難しいという実感の連続です。



森 苦しいのはいずこも同じですね。その中で、自分たちの果樹園を株式会社にされた理由は何だったのですか。

秋竹 同じ地域の7戸のみかん農家で、任意の集まりをつくったのが今から約30年前のことです。10年ほど前までは各戸が育てたみかんを共同出荷する形でしたが、所得を安定させるために、ハウスみかんの栽培にも乗り出しました。ハウスみかんはみかん栽培の中でも安定した収益を出せることができましたので、そのうち、それぞれの子どもたちが家の仕事に関心を持つようになり、それで、次の世代への継統ということを考えるようになったのです。ちょうど今、30代半ばの後継者が4人いるのですが、夢の描ける農業をやっていくためにも、きちんとした組織にしようということで株式会社化しました。

森 組織化したことで、何か気持ちの上で変化はありましたか。

秋竹 会社組織にした途端、皆の考え方が大きく変わり出し、良い方向に転んだと思います。一人では踏み出しに



農林水産業の担い手が6次産業に挑む、パイオニアたち

くい一歩も、組織でなら踏み出せます。現在、和歌山県は日本一のみかんの産地ですが、そのうち有田みかんの生産量が県全体の50%以上を占めます。有田地方は北部と南部に山地が広がり、我々の先祖は急峻な山肌に段々畑を切り拓いてきました。排水が非常に良いのと、日照時間が長いお陰で、みかんの味がとても濃いのが特長です。しかしながら、農業としては非常に効率が悪いです。みかんは収穫にも機械は使えず、1個1個手でつみ取ります。ですから大量生産は無理なのです。

森 そのまま市場に出荷したのでは、採算は合いませんか。

秋竹 みかんは毎年11月頃に収穫期を迎えます。有田の全山が黄金色に染まり、そこから一気に市場へ流れます。まさになだれ込むような形で、付加価値を付ける間も何もないんです。

森 なるほど。育てて出荷するだけになるのですね。

秋竹 ええ。それだと採算に合う価格はつきませんから、当然後継者もいなくなります。ですから我々は、組織化を



おいしい果実を作ってこそ、美味しい商品ができます(秋竹氏)

きっかけに、みかんの加工に乗り出しました。それが今からちょうど7年前のことです。地元のJAも、みかんの缶詰やジュースは外国から安く輸入され、価格的に通用しないという理由で、加工には逃げ腰の状態でした。しかし、時期がちょうど良かったのだと思います。最初に手がけた味一しほりが、お客様に好評で、現在は全国の百貨店を

はじめ、少量ですが海外にも出荷しています。

森 1本(720ml)が1260円で、ですから、贅沢な品ではありませんが、今の消費者はそれだけの値打ちがあると納得すれば買う、こだわり層が多いと思います。

秋竹 そうですね。始めた時期も良く、運が良かったという気もしますが、そ

うしたお客様のニーズにうまくマッチしたのではないかと思います。

森 しかし非常に美味しい(笑)。1本にどれぐらいのみかんを使うのですか。

秋竹 小さなみかんを30個ほど使います。原料となる味一みかんは、糖度が12度以上であることなど、和歌山県が独自に基準を設けたブランドみかんです。森 県が定めた規格なのですね。

秋竹 そうです。まあ、特別に美味しいみかんです。この基準をクリアするのは、有田でも全体の数%ほどです。そういうみかんを搾っていますから(笑)。さらに搾り方もみかんの皮を剥いて、果肉だけを裏ごしするような製法でジュースにします。

吉田 ジュースの原料にはB級品を使うというイメージがありました。これはまったく逆の発想なんですね。

秋竹 いえ、一般的には今もそうかも知れませんが、それは通用しないという現実から、味一しほりは生まれたのです。美味しいみかんを搾ったものは、やはり美味しい。それを一番よく知っているのは、我々なんです。

◇びわ鮎センター

河川放流用、友釣り用のアユ養殖場として89年に開業。翌年、飲食部門を設け、当初の屋台アノトから現在の古民家風店舗へと着実な成長を遂げる。3月から10月のアユ料理期間中は無休営業。週末は東海、京阪神地域からの観光客で賑わう。

命をいただく―謙虚な心でへびわ鮎センターへ

森 川瀬さんのところは生き物を扱うだけに、お米やみかんを作るのとは、また違ったスタンスではないかと思えます。それと、川瀬さんのご経歴が、とても興味深かったのですが(笑)。

川瀬 前職は刑事警察です(笑)。ただ、大学は海洋学部でしたから、水産業に対する興味や知識はそれなりにあったのです。とはいえネクタイを締め、ペンを握る毎日から、いきなり生き物相手の仕事に放り込まれたのですから。家の事情とはいえ、とまどいは大きかったですね。

森 仕方なく家業を継いだ感じだったのですか。

川瀬 そうでもないのですが、最初はやはり、帰って来てやった、という驕りがありました。それを先代(父)は見抜いていたようで、ある日突然、机の上に小切手帳と実印を並べ、ひと言、「やってみろ」と言ったんです。

森 たったひと言だからこそ、お父さんの決意の重大さが伝わってきたのでは？

川瀬 私はそれで覚悟を決めて、商売というものを真剣に考え、がむしゃらに働くようになりました。毎日が勉強の連続で、それで気づいたことも随分とありますが、振り返れば日々感謝です。しかし、感謝の気持ちは仕事がかまうくらいしているからではなく、自分の中のもっと謙虚なところから湧いてくるような気がします。ちょうど森さんに出会った頃からかもしれません(笑)。

森 川瀬さんは、持続可能社会についても非常に真剣に考えておられ、勉強熱心な印象を受けます。

川瀬 やはり、一番に思うのは、自分たちは鮎の命をいただいて商売をさせ

てもらっているということです。そこから、すべてのものの命を考えるようになって、子どもたちにも鉛筆でも消しゴムでも使い捨ての時代だけれど、使い切った後は、ありがとうとねぎらいの言葉をかけてあげなさいよ、と話すようになりました。

森 親にしかできない、素晴らしい教育ですね。

川瀬 そういう気持ちで自分の中に芽生えたのは、鮎の養殖を手がけるようになってからです。鮎を上手に育てるということは、いかに鮎と会話するかです。調子が悪いとか、もっと餌を欲しがっているとか、観察力が求められます。ですから宮崎県の口蹄疫の問題を見ると、胸が押しつぶされそうになります。人間に食べられる宿命をもった経済動物ではありますが、私だってお客様に「美味しかった」と最後に言ってもらえてこそ、鮎の命を全うさせられたという思いでいます。それが途中で、しかも自分のミスで死なせたとなったら、こらえてくれよ、と頭を下げるしかありません。



命をいただいている、だから大事に育てたい(川瀬氏)



新鮮なアユ



ビワマスのおさしみ。トロのよう…

森 生産から販売までを手がけるといふのは、愛情だとか、謙虚さだとか、そういう精神性が反映する産業であるように感じますね。

川瀬 自分の手でつくったものですから、自信をもってお客様に提供していきたいというのがあります。その上で、お客様の評価を直接い

ただくことができ、本当にいい仕事に巡りあえたと思います。

森 養殖のみならず、鮎料理の飲食施設を設け、それが成功した理由は、ご自身で何だったと思われませんか。

川瀬 まず自分が食べて美味しいものを出す、というのが最初です。

森 つまり、板前の役割も担うということですね。

川瀬 ええ。最初は塩焼きから。次に、家庭料理のようなメニューを始めました。でも、それだけではすぐに飽きぎきます。ですから毎年、新しいメニューづくりに取り組んできました。

編集部 養殖鮎と琵琶湖の天然の小鮎、それにビワマスがこちらの主力商品ですが、お米や野菜もご自分たちで育てられているのですよね。

川瀬 この席からもオオバ、パセリ、大根の葉っぱが見えます(笑)。循環型社会を意識した経営を続けていきたいので、地産地消をめざしています。鮎の命をいただいている、これが我々の循環の始まりだということを忘れずにですね。

●採算性のバランス

森 では、採算性ということについてお聞きします。元を取ろうとすると、どこかで理想に妥協しなければならぬと思うのですが、皆さんはどのようなバランスをとっておられますか。

吉田 生産の先に、消費者が業者か、どちらの顔を思い浮かべるかでバランスの支点は大きく変わってくると思います。もし業者の顔なら、お米だって換金のための対価物でしかなくなるでしょう。消費者の顔なら、お米と一緒に届けたいのは命の大切さであるとか、自分のこだわりであるとか、生産者自身のお米への見方が変わってきます。これを金に換えるのだという思いで消費者に自分のお米を訴えても、何も伝わらないと思います。

秋竹 我々は直接、百貨店などに出向いて行って対面販売もしています。その際に感じるのは、品質や価格という購買基準もありますが、売り方でもとても違ってきます。こちらの人となりというか、やはりお互いが笑顔同士に

なれたとき、お金をいただけるといふのがあると思います。それと、最初のジュースのときからお客様と対峙しながら販売してきましたので、それが次の商品開発に役立ったと思います。もし業者さんに出荷するだけでは、なかなか次の一手まで考えるようなモチベーションは湧いてこなかったかもしれない。顔の見える販売を心がけていますので、決めた基準は遵守です。

吉田 僕が農業を始めたときに感じたのは、感覚が遅れているということですよ。1次産業に従事する者は、商売じゃないんですよ。だからこそ逆に、工夫次第でチャンスが沢山あるのでは、と思いました。一番は、本当に消費者が求めているものと、生産者が作っているものとのギャップを埋めることです。今、無農薬で「長寿米」というお米を作っていますが、何せ自然が相手です。すから味の落ちるお米ができることもあります。そのときは、一定のレベルに達しないものは、自分たちの作ったお米として出荷しないという、そういう強いこだわりをもった先輩方のことを

思い出し、見習うようにしています。全体の半分近くがレベル以下になることもありますが、ついもあったいと思いがちですが、しかし、それをやったお陰で、お客様からいつ注文しても間違いがない、という信頼を勝ち得られるのです。それぐらいのこだわりがあつてこそ、お客様はついてきてくれるのだと思います。

●作ったものへの自信

秋竹 味一しぼりに1260円という価格をつけたのは、有名百貨店のバイヤーさんと最初にお会いしたとき、「これは日本にないですね」と言われ、こうから価格を提案いただいたのです。

森 一流百貨店価格なのですね(笑)。

秋竹 ええ。それとその前に、和歌山県が東京の有楽町にアンテナショップを開設し、その時、このジュースを有名ホテルの料理長に飲んでいただく機会がありました。「自分は30年以上、食材に携わってきたが、これだけのジュースを飲んだのは初めて」と言っていた

ました。自分たちでも美味しいとは思っていましたが、他と比べてどれぐらいのレベルかというのはわかりませんでした。ですから、その言葉で自信がついて、1260円でいこうとなったんです。

吉田 よほどの自信がなければ、売れないんじゃないかと考える値段ですよ。

秋竹 実は私自身も千円以内にしたかったです(笑)。その東京の百貨店で、初めて試飲販売を行ったのですが、その年も前の年も、みかんの市場価格は散々なものでした。市場側の安値の言い訳の決まり文句は「みかんを食べてくれるのは、歳のいった人だけ。若い人は食べてくれないから、出荷量が少し多ければ溢れるよ(値崩れ)」で、みかんを加工したところで、「なんだ！みかんのジュースか」と、そう思われるのではないかと不安だったのです。

森 コタツで一家団欒というのがなくなりましたからね。

秋竹 でも、若い人も「わあ、みかんがあ。めっちゃ美味しい！」と、喜んでくれたんです。高価ですから、ほとんど

買っていただけかもしれませんが(笑)。それから3年ほどは、こんなことをやっていていいのだろうか、価格を下げようかと葛藤が続きました。しかし、徐々にですがほんものの良さが解つてくれ、人気が出てきました。もっと売れる方法はないかということで、毎年新しい商品を開発するようにしたのです。

それと、味一しぼりのセカンドラインとして、糖度1度のみかんを原料にした「味まろしぼり」を作りました。商品のラインアップを強化することで、味一しぼりの価格は下げずにいきました。今思うと、よく踏ん張ったと思います。が、価格がブランドの価値を保つてくれる面もあるのではないのでしょうか。

森 まるでイタリアの世界的なブランドのようですね。高価な品がよく売れても、決して量産はしない。買いつも価格に劣らぬ価値があるのを知っているから、安心して買うと。

秋竹 今はお中元のシーズンですから、夜中まで作業する毎日です。試飲試食販売、DMやインターネットを通じてお買い上げいただいたお客様が、リピ

ーターになってくださるケースが多いです。

自分たちで「将来」を切り拓く

川瀬 みかんの産地は全国にありますよね。そこから類似の商品が出てくるのではないですか。

秋竹 そろそろ出始めました。値段も一本千円程度と似通っています。みかんの加工品がどんどん出ています。

川瀬 そうなると競争力といった点で、また大変ですね。

森 大量に生産して安価で販売しようというところが出てくれば、足の引っ張り合いになるでしょうね。それよりもまず、原料に限りがあるので、これはいつてみれば生物系資源に依存して成り立つ循環型社会の縮図のようでもあるわけです。やはり、各々の最初の志が失われてはならないと思います。

秋竹 そのとおりだと思います。ブランド有田みかんに特化して、恥じない商品作りをしていきたいと考えています。同じ和歌山県のみなべ町は、南高



塩焼きの鮎は、皮がパリッと骨まで柔らかく・・・

梅で知られる梅の産地です。早くから町ぐるみで高付加価値化に取り組み、地域の産産を盛り上げてこられました。

十数年前のことになりますが、梅のみなべと、みかんの有田。それぞれの中核農家の所得を比較すると1千万円以上違ってました。当時、何とか有田みかんにも付加価値を高める方向に進まなければと、危機感にも似た思いを持つようになりました。それも、組織化の大きな理由だったと思います。

● それぞれの場所で励みつ

森 では最後に皆さんから、将来の夢や展望についてお聞きしたいと思います。

吉田 最近こそ農業が持て囃されていますが、これを一過性でなく、ほんまもの現象にしたいと思えます。ひと昔前までは、大学を出て農業をやるというと、「そんなアホな」の世界でした。でもそうではなく、きちんと学んだ上で、農業という職業を選ぶのだという流れにしていきたいです。そのためには所得の確保など、いくつかの課題がありますが、学歴や職業観に縛られず、やりたいと思う志のある人に従

事してほしいと思います。

川瀬 鮎はもともと日本や朝鮮半島、中国の辺りにしか生息しません。日本一の鮎料理屋になることは、ひいては世界一になるということだと思えますので、ここの鮎が一番美味しいと笑顔を帰っていただけるような、世界一の鮎料理屋をめざしたいと思えます。自分は苦労という言葉が嫌いで、これまで苦労したと思ったことは一度もないんです。困難も苦労も仕事にはつきみので、それを創意工夫して乗り越えていくところが仕事の醍醐味だと思えます。3Kの業種かもしれないませんが、一次産業に従事する者のプライドをもつてやっていきたいと思えます。

秋竹 日本一有田みかんを、もつともって活性化する仕事ができればと思っています。それにはジュースを始め、みかん加工品を国内だけでなく世界へ販売していきたい。現在の香港、台湾、シンガポールから、さらに販路を広げて行くことが大切だと認識しています。それと、若い後継者達をしっかりと教育しながら、生産者として企業として、

レベルアップを図りたいと思います。
 森 今日はいよいよお話を聞かせていただき
 きました。読者の方々には、まだまだ
 夢も希望も託せる将来があると、そう
 感じていただければ幸いです。皆さん、
 どうもありがとうございます。

一同 あり
 がとうござ
 いました。



「鮎茶屋かわせ」は県外からのお客様で賑わう

味一しほりを
 世界へ

秋竹新吾

●あきたけ しんご 1944年
 和歌山県生まれ。1963年県
 立吉備高等学校柏橋科卒業。会
 社の前身である早和共撰の組合
 長を経て、2000年に設立し
 た有限会社早和果樹園の代表取
 締役に就任。2005年に株式
 会社に組織変更。
<http://www.sowakajuen.com>

商売は

笑売

川瀬利弥

●かわせ としや 1956年
 滋賀県生まれ。1979年東海
 大学海洋学部卒業。同年、滋賀
 県警察警察官に任官。85年に
 退官し、父親が経営する株式会

社びわ鮎センターに入社。19
 90年に代表取締役就任。
<http://www.ayuchayaya.com>

夢のあふ
 農業

吉田道明

●よしだ みちあき 1968年
 滋賀県生まれ。1987年県立
 虎姫高等学校卒業。30歳から無
 農薬栽培の農業をはじめ、吉田
 農園の代表となる。現在、自身
 と両親のほかに3人の従業員で
 農園を切り盛りする。米粉のシ
 フォンケーキなど、地域特産物
 の開発にも取り組む。
<http://www.yofz1.com>

※森氏のプロフィールは13ペー
 シ

畑は第一の調理場 素材から食のあり方を考える



榎本 清武

株式会社大阪愛農食品センター/
有機野菜のレストラン『グレイス』

● あわい黄色のスープをスプーンで一口すくうと、口の中にかぼちゃの濃厚な甘さが広がり、のどを過ぎるあたりで玄米の香ばしさが口内を引き締めます。この玄米クリームスープを提供しているのは、1996年日本初のオーガニックレストランとして大阪玉造に誕生し現在は岡山県にある『グレイス』の榎本清武さんです。

榎本さんは、有機野菜の流通を担う株式会社大阪愛農食品センターの設立運営に従事し、自らも農業をされています。様々な角度から食のあり方を探求する榎本さんに現代の食についてお話を伺いました。

- 大阪府、岡山県
- 2010年7月
- インタビュー：つじむらことみ

料理人としてスタート

15歳で料理人見習いから始めました。食品公害に気付いたのが1965年、私は大阪クリスチャンセンターで料理人として働いていました。あるとき、シチューを作るために和牛を焼いていると、変な臭いがします。注意深く臭いをかき分けてみると、どうも子どもの頃かいだことがあるDDT、BHCの匂いだと気づきました。さらに、臭いの元をたどると、脂の臭いだと分かりました。それでBHCだと確信しました。

戦後、米軍が日本の家庭にDDTを配布し、のみやしらみを駆除するために、頭からかけられて消毒させられた記憶がよみがえりました。今考えると農薬を頭からかぶるわけですから恐ろしいことですが、当時は畳が真っ白になるほどかけることが頻繁にあったのです。

その農薬を今度は稲作に使うようになりまして。ニカメイチュウという虫が付くと稲ができないので、防除のためにBHCを使用しました。その農薬が付着した稲藁は、牛の餌となりました。牛は、1964年頃は稲藁を食べていました。有機塩素系の農薬は体内に入ると脂肪に蓄積されます。

ですから、和牛から変な臭いがしたとき、その要因に思い至るとともに、つくづく料理人は情けないものだと思います。料理人は、「よくないんじゃないか」と思いながらも、販売されている材料を買ってきて料理するしかないのです。

子供の病気をきっかけに

それから、結婚して、長男が生まれました。彼が幼稚園に入園した年の5月、お腹が痛いというので病院に連れて行きました。しかしどの病院に行っても原因が分からず、丸2日間、神戸中の病院を回り、最終的に神戸大学附属病院で緊急手術となりました。「30分遅かったら助からなかった」と言われ、体中に膿が溜まっていました。

あれから、結婚して、長男が生まれました。彼が幼稚園に入園した年の5月、お腹が痛いというので病院に連れて行きました。しかしどの病院に行っても原因が分からず、丸2日間、神戸中の病院を回り、最終的に神戸大学附属病院で緊急手術となりました。「30分遅かったら助からなかった」と言われ、体中に膿が溜まっていました。

有機農業との出会い

5月に入院して退院したのが10月でした。私は毎晩病院に泊まり、朝は病院から仕事に行きました。そんな生活をする中で、もしかすると我が家の食生活が間違っているのではと思に至りました。

そこで、家の食事を玄米と野菜中心に変え、大阪大手通にある正食協会というマクロビオティック(※1)の講座へ約2年間通いました。この学校で、食べ物、調理の仕方によって体に対する働きが異なるのだと知りました。1975年、私は料理人であったことから、正食協会の講師として、寝屋川市が開催する市民のための健康料理教室に派遣されるようになりました。ここで約10年間講師を務めました。

あるとき『有機農業(※2)』という方法があると知りました。当時、日本では奈良県五條市の開業医梁瀬義亮さんが有機農業を推進しておられました。先生は1958年頃、農薬の害に気付



とれた手の野菜を調理、グレイス厨房にて

かれました。戦後、患者さんを診察していて、今までに例のない症状が出ていることに気付き、農業により人々の神経が侵されていることを突き止めました。そこで農水省や厚生労働省に農薬の使用中止を求め、さらに、有機農法による農業をしないと日本国民が滅亡すると世の中に訴えられた。しかし国はまった

全国愛農会との出会い

く相手にしなかったし、農薬会社は「梁瀬先生の発言によって奈良県の農作物が売れない。風評被害だ」と批判したので、先生は随分迫害を受けました。

そのようなことを経て、私はクリス

チャンセンターの食事を全て自然食に変えました。私が自然食を扱っていると聞いた西宮の牧師から「いい卵があるから使ってみないか」と広島県東城町の卵を紹介され、クリスチャンセンターでも扱うようになりました。そしてそのとき、全国愛農会（※3）の存在を知りました。

1975年9月11日にクリスチャンセンターで講演会「複合汚染・講演と座談の時」を愛農会の創立者小谷純一先生と梁瀬先生を招き開催しました。参加者は約130人、昼から晩の7時くらいまで話が盛り上がりました。講師のお二人が、「講演を聞くだけでなく、これを実りあるものにしてほしい」と発言されました。そして梁瀬先生が「人類は、水の洪水で滅んだ歴史がある、現在では毒の洪水で滅びようとしている。だから第二のノアの箱舟を作っていた方がいい」と言われました。

同じ年の10月13日二回目の集まりを持ちました。有志が集まって、今あるものから流通させようということになりました。



①大阪愛農食品センターの出荷場

②地域ごとに手早くピッキング

③配送用トラック

④愛農食品センター外観

大阪愛農食品 センターの設立

農家は4、5年前から有機野菜を作っていました。ただ、どこへ持って行けば売れるのか分からないでいた。一方、先の講演会に参加した消費者は、恐ろしい話を聞いたから何とか有機野菜を手に入れたいと思いましたが、両者の思いが一致したので、まずはみかんを販売することになりました。

10月28日一回目のみかんが届きました。和歌山県みなべ産のみかんが15キロのダンボールに280ケース、4トントラックにいっぱいです。

まだ会員組織などなかったので、隣の大阪女学院や、枚方の健康を考える会、講演会に来た人たちのお宅を訪ねて売り歩きました。やっと売れたと思うと、また送られてくる。3月くらいまで、みかん、はっさく、甘夏などのかんきつ類、えんどう豆、キャベツが送られてきました。

組織がなかったので、梁瀬先生の提唱されたノアの箱舟会という名前です。事務局を発足させました。

私は、クリスチャンセンターに勤めながら、ノアの箱舟会事務局長になり2年間ボランティアで運営に関わりました。これは、1977年に株式会社法人として継承されました。同じ年の9月株式会社大阪愛農食品センターを設立しました。もうボランティアではやっていけなくなったのです。

私は、料理長であり、マネージャーでもありましたから、宿直をしながら、早朝や夜中に配達し、夜寝られないほど忙しかった。これが2年間ほど続き、このままではもたないと思い、人を雇うことにして、株式会社化しました。

現在の会員数は生産者を含めて1200名ほど。そのうち消費者会員が1000名強。かつては約2500名いましたが、1996年頃から急激に減っていきました。

スタッフは約30名、商品種類は80種、会員には週1回配達、お店には週2回野菜を届けます。一番売れているのは野菜です。それから果物、お米、ジュースや調味料などの加工食品です。売上は、年間約5億円、昔は8億円ほどありましたが、会員数が半減し年商も減りました。消費者、生産者ともに世代交代がうまくできていません。

私たちと、私たちの子どもの世代では、食べ物に対する考え方が違います。私たちから上の世代は、冷蔵庫に食べ物がいっぱいないと安心できない。一方、今の若い人は、冷蔵庫がすいている方がいい、必要なものを必要なときに買うスタイルです。それに、昔の人のように料理をしなくなりました。また、若い人は食が細い。私たちはよく食べ、

よく働きます。現在は、調理されたものを求められることが多く、土のついた野菜は売りにくいです。女性が外で働くようになり、家で料理する時間がないため、できあがったものを買って帰るケースが増えた。そういった社会の変化があります。

われわれも有機野菜を使ったマクロビオティックの惣菜を作って販売すればいいんです。駅に惣菜コーナーを作ったら売れるのではないのでしょうか。そういうことをプロデュースできる知識や技術があり、農を愛し、人を愛する若い人を育てたい。

有機野菜を使ったレストラン「グレイス」

グレイスは、離乳食から介護食までの世代でも食べられる料理を作りまします。岡山では、田んぼを5反7畝ほど借りて米2反半、野菜8畝、黒田大豆が1反1畝くらいの規模で農業をしています。

農業のかたわらレストランをやって

いるのか、レストランのかたわら農業をやっているのかわかりません。料理人といっても、土の中で育った野菜を切ったり焼いたりしているだけです。作物は人が作っているようで、大部分は種をまいたら自然の中でできます。肥しをやったり、草抜きをしたりしますが、どうも自分が作っているとは思えない。

土壌こそが料理のスタートではないでしょうか。私は畑は第二の調理場ともいいますが、本当は第一の調理場かもしれません。そういうことを考えて、土を作ります。

野菜などの作物ができていく過程には厳肅さを感じます。3日大阪にいて、岡山に帰って田んぼや畑へ行くと、作物が大きくなっています。「留守の間に大きくなったな」と稲や野菜に声をかけます。料理するときは、「いいか、美味しく作ってやるからな」、米を研ぐときは「美味しいご飯になるんだよ」と言います。肉や魚と同じように野菜にも命があるので料理をする者は、謙虚に料理に向かわなければなりません。



①大好きな畑にて ②お米も作っています ③採れたて新鮮野菜たち

1996年、私は大阪愛農食品センターをいったん退社しました。同年、大阪玉造のクリスチャンセンターのテナントで、日本で始めてのオーガニックレストラン『グレイス』をオープンしました。オーガニックレストランは、当時ほかになかったので話題になりました。90%はオーガニック素材を使う徹底した有機のレストランです。その後、

2002年に岡山に場所を移しました。退職して9年、岡山に移って3年が経った2005年、再び大阪から「帰ってきてほしい」と声がかかりました。「店もやっと軌道にのってきたところなのに、どうしたものだろう」と家内とも相談しました。「大勢の人のためになるのだったら店を犠牲にしても行ってきたら。店番は私がするから」と家内が言ってくれて大阪に帰ることになりました。

長男の病気に導かれて

有機農業を知るきっかけとなった長男は、今では健康でコロコロに太っています。

初めは長男に玄米や有機野菜を食べさせたかったです。ところが、長男は玄米が大嫌い。それで、どうしたら長男に玄米を食べさせることができるか考えました。ただ普通に玄米を炊いただけでは食べません。野菜もよっぽど美味しい料理にしないと食べない。だからうちの長男が食べる料理を作



④木をふんだんに使った店内 ⑤かぼちゃの玄米クリームスープ ⑥炒った玄米 ⑦玄米と古代米のご飯 ⑧前菜
⑨グレイスのシンボルタワー、蘇鉄の木が目印

れば誰でも食べられるはず
です。

**これからの
食と医療
と健康**

今、「食育」と盛んにいわれます。それから、介護食です。介護の仕事をされている方と組んで栄養バランスなどを考慮したメニュー作りに取組んでいきたいです。たとえば、玄米の食べ方について記された『がん患者は玄米を食べ

なさい』（伊藤悦男著、現代書林、2009）という本があります。炒った玄米を炊いて食べると、アルファグルカンという成分が多く摂取できます。アルファグルカンは、玄米を炒って炊いたときに発生しますが、これは抗がん剤になるそうです。

そこで、私は玄米を炒って玄米クリームを作りました。玄米クリームは、起死回生の妙薬で、重病人もこれを食べれば回復していくといわれます。『グレイス』では、この玄米クリームを使ったスープを作ります。炒り玄米とお野菜と豆乳、昆布だしを一緒に焚いて、純植物性のスープです。離乳食から介護食まで使えます。豆乳や米にはたんぱく質が、野菜には豊富なビタミン、昆布だしにはミネラルが含まれています。食べると身体が元気になるようなスープを目指しています。旬の野菜6、7種類をやわらかくたいて裏ごしします。一つ一つのメニューを2、3時間かけて作ります。そうして手間隙かけて作った料理は食べたときにエネルギーが得られます。

愛農会を母体とする愛農学園は、1964年三重県伊賀市に開校した日本ではじめてお百姓さんが作った学校法人で、日本で唯一の有機農法を教える農業高校です。卒業すると高校の卒業資格が得られます。生徒数は、一学年一クラスで25人です。現在、全校生徒70人程が在籍しています。

生徒、先生ともに寮に住み込み、先輩後輩の上下関係を学びます。今の社会にかけているところを、ちゃんと身につけて卒業します。これまでの卒業生は約900名。最近は減っていますが、かつては就職率80%を誇りましたが、最近では大学の農学部に進学する子も多いです。

農業だけでなく精神的な鍛錬も

小谷先生(※4)が提唱される愛農精神は、神を愛し、人を愛し、土を愛する、三愛精神が中心となる思想です。

基本的には農業が好きで好きでたまらないという人を作ることです。小谷先生はいつも「農業者たる前に人間たれ」と言われました。百姓だから何も知らなくていい、ただ野菜や米を作っていたらいいというわけではない。戦後、愛農会が作られた当初は、関係している人々が15万人くらいいました。北海道から沖縄まで各道府県に愛農会があり、大きな農民組織だったのです。ところが、一時期、日本の中で農業軽視、食べ物を粗末にする、百姓をバカにするような風評がありました。そうして、学校から農業と名のつく科目が無くなっていきました。

農は国の根本です。農業なくして国は存在しません。自分の国で生産されたものを食べる、100%自給しているということが基本です。

今年、愛農高校に25人入りましたから、定員満杯です。農業に人気が出てきたということだと思います。

日本健康長寿食研究会をつくりたい

これからの夢は、マクロビオティックと伝統的的地方食を組み合わせた料理を作ることです。それが介護施設や病院などで広まっていくといいですね。

人間の身体は食べ物や生活の仕方によって健康になったり病気になるったりします。病気になる場合、今の病院治療の方法から少し視点を変え、食べ物、生活習慣などを総合的に指導することで健康を取り戻していくようなプログラムを実施する施設があればと思います。薬に頼らず食事によって健康を維持する。人間の身体は、食物によってできていますから健全な食物を食べれば、健全な身体と精神ができるはずですよ。

つじむら 自分で自分の体をどうしたいのか、学んでいく姿勢も大切ですね。何をどれくらい食べた方がいいのか、コントロールできるといいですね。本日はありがとうございます。

『グレイス』で食事を終えた後で、榎本さんは炒った玄米を見せてくれた。口に入れると香ばしい玄米の香りが



玄関にて榎本さん、奥さま、今関先生（今関先生のご子息と榎本さんのご息女が夫婦）

口内に広がる。これが玄米クリームになる。丁寧に作られた食事に取材陣は気持ちも体もすっかりほぐれて帰路につきました。

【注釈】

※1 マクロビオティック：長寿法を意味する。玄米を主食、野菜や漬物や乾物などを副食とすることを基本とし、陰陽論を元に食材や調理法のバランスを考へる食事法。

※2 有機農業（Organic Farming、Organic agriculture）：自然環境や生態系と調和した形で行われる農業形態の一つ。有機農法、有機栽培、オーガニック農法などと呼ばれる。

※3 全国愛農会：1945年、小谷純一氏によって発足。農業を愛し、農業に生きる者による自主独立の運動として推進され全国に広がった。『愛農救人類の書』『愛農救国の書』

※4 小谷先生：全国愛農会の創始者小谷純一氏（1910～2004）。



小谷純一氏著
「愛農救人類の書」

信・望・愛
榎本 清武

●まきもと きよたけ
株式会社大阪愛農食品センター
品センター 非常勤取
締役

●株式会社大阪愛農食品センター
本社 / 〒5999-8264 大阪府堺市中区小阪西町8-8
TEL 072-27015411
FAX 072-27015410
URL <http://www.osaka-ainou.jp/>

●Organic Restaurant
GRACE
〒709-0721 岡山県赤磐市桜が丘
東1丁目1-959
TEL 086-655-0000 (個人線)

主力商品で 地域貢献を目指す



馬鈴薯栽培「やめられへん」— カルビー(株)『しがじゃが』の魅力

読者のみなさんは『しがじゃが』をご存知ですか？『しがじゃが』は滋賀県産の馬鈴薯を使い、滋賀県でしか購入できないカルビー株式会社が発売する地産地消商品です。

近年、「地産地消」「地域貢献」を企業活動といかに結びつけるか、多くの企業が課題としています。今回は、カルビー株式会社湖南工場を訪れ、『しがじゃが』の製品化に携わった方々からお話を伺いました。

- 湖南省 柑子袋 カルビー株式会社湖南工場
- 2010年7月
- インタビュアー：つじむらことみ



店頭に並びました
「しがじゃが」えび豆味ほんのり塩味



営業の芝野氏、調達川崎氏、製造の山方氏、経営の沖本氏、勢ぞろいした精鋭たち

2010年7月10日、今年も『じゃが』が平和堂の店頭に並んだ。店の棚に並べている先から売れていく。箱買いする人もいる。この時期、滋賀県内のいたるところで「今年、じゃがじゃが」買うたか?」「買うた」「どうやった?」「うまかった」といった会話が飛び交う。

『じゃが』は、滋賀県産の馬鈴薯を使用したポテトチップスで、毎年7月初旬頃、滋賀県下で営業展開する

今年の『じゃが』食べた?

沖本 和幸 (右)

カルビー株式会社湖南工場
工場長

山方 政雄 (右から2人目)

カルビー株式会社湖南工場
生産支援課生産支援チーム

川崎 滋生 (右から3人目)

カルビー株式会社中日本事業本部
企画課課長

芝野 康雄 (左)

カルビー株式会社中日本事業本部近畿
マーケティング課



マウントしがじゃが。思わず手が出る

スーパー平和堂の70店舗をはじめとする県が推進する『おいしがうれしがキャンペーン(※1)』加盟店で販売される。その年の滋賀県産馬鈴薯の収穫から製品化されるが、例年、1週間から10日で完売する店が多い。1年に一度

7月に巡ってくる七夕祭り
のような商品である。

😊
「しがじゃが」は
「シラビエ」生まれ

「空白の近畿地区でも
馬鈴薯を栽培したい」

2007年7月、滋賀県下25ヘクタールの畑から採れた馬鈴薯が、湖南工場で製造処理され、約2万9千袋の『しがじゃが』として平和堂で販売された。宣伝は、平和堂がFM放送局イーラジオに持っていた枠を通じて、発売の8日前に行なった。この番組を聞いていたリスナーからの反響は大きく、すぐに売り切れた。

カルビー(株)では、従来から産地を特記した商品を手がけてきた。しかし一県内に限定して消費するというのは、珍しいケースだ。

同社は、南は九州から北は北海道まで全国で、ポテトチップスの原料となる馬鈴薯を生産する農家と契約している。鹿児島県、長崎県、徳島県、岐阜県、茨城県、青森県などの産地で2割、そして北海道が8割を占める。同社のポテトチップスは年間を通じて店頭に並んでいるが、その主原料の産地は収穫時期に合わせて南から徐々に北上しているのだ。

そんな中、長年カルビー(株)にとって近畿地区は加工用の馬鈴薯生産農家不在の空白地帯であった。そこで「近畿でも馬鈴薯が採れるようにならないだろうか」と滋賀県に白羽の矢が立った。

『生産者と結びつく』

2005年、カルビー(株)と契約して馬鈴薯を栽培してくれる農家のルート開拓を担当する川崎さんは、初めて滋賀県を訪れた。「田んぼや畑がたくさんあっていいな」と思ったそうだ。川崎さんの名前は滋賀に生れると書いて滋生(しげき)だが出身は静岡だ。つまり、この地域の農家とのコネクション



夜な夜な出でてました（川崎氏）

はほとんど持っていないかった。幸いなことに、湖南工場で働いている人たちは滋賀県出身者が多かったので「芋を植えたいんだけど、興味ある人いるかな」と聞いてまわった。

滋賀県は、何十軒かの農家が協力して一つの農業を営む営農組合制度が盛んだ。そこで、営農組合を何軒か紹介してもらい、その役員さんたちの寄りに夜な夜な参加し馬鈴薯作りについて話をした。農家の人たちは、興味はあるものの、海のものとも山のものとも知れない話になかなか踏み切れない様子であった。そんな中、一組の営農組合が「何もわからんけど、だまされたいと思ってやってみるわ」と言った。

そうして、営農組合と川崎さんの二人三脚が始まった。畑は、J R 東海道

本線の野洲駅と東海道新幹線高架との間にあり、目立つ場所だったので「何かへんなことしている人がいる」と気付く人たちが出てきた。やがてその話を伝え聞いた農協や県職員の方から「話をしましよう」と声をかけられるようになり生産者との関係が広がっていった。「紹介してくださった方の信用が一番大きかった」と川崎さんは当時を振り返る。

取材に訪れた日はちょうど馬鈴薯の収穫期だった。県内5カ所にある約8ヘクタールの畑で今年は、約200トンの馬鈴薯が収穫された。ちなみに発足当時は馬鈴薯を栽培する畑は25ヘクタール弱であったというから3年間で約3.2倍に増えている。

馬鈴薯そのものを販売するわけではないため、規制品でなくても、畑の中にあるものすべてそのまま買取りしている。ただし、青果用に比べて歩留りが高い分、単価が安くなる。

野洲市の契約栽培農地。新幹線からも見える位置。



『えび豆味ってどんな味?』

『しがじゃが』には『ほんのり塩味』と『えび豆味』の2種類の味がある。いずれもぎざぎざにカットされており、その食感が、芋の存在感を際立たせている。

ほんのり塩味は、文字通りほんのりと口の中で鳴門の塩が香り馬鈴薯の味を引き立てる。

一方のえび豆味は、口に入れると大豆の甘辛さがほわっと広がり、舌の奥の方では小えびの香ばしさがしつかり刻まれる印象的な味わいである。これはまぎれもなくあのお惣菜『えび豆』の味だ。小エビと大豆をしょうゆと砂糖で甘辛く煮込んだ近江地方の郷土料理である。

「えび豆って食べたことがありますか?」

と商品開発を担った山方さんに質問されて、同席していた取材陣の反応は、まぢまぢであった。

県内出身・在住のカメラマンは「僕は食べたことがあります」と答えた。



「えび豆って知ってます?」なにげない疑問が新製品のヒントに(山方氏)

京都出身・在住のライターは「自宅の食卓に時々上る」と答え、大阪出身・在住のスタッフは「食べたことも見たこともない」と答えた。

商品開発に際して、山方さんはいろいろな人に「えび豆って食べたことある?」と聞いて回ったそう。たいていの場合、「何それ?」と返ってきた。どんな料理か説明すると、ほとんどの人が「ああ、あの甘辛の…」と知っている。料理名は知らないけれど、誰もが食べたことがあるという。

「それくらい地域に根付いた、歴史ある、地域を代表する料理なんです。味も甘辛でポテトチップスに合う」

と山方さんは自社製品への自信をのぞかせる。

カルビー(株)湖南工場ってどんな会社?

『カルビー(株)湖南工場の独立』

2005年、カルビー(株)湖南工場は、カルビー湖南工場株式会社として親会社から独立した。そのときに「地域ブランドを確立し地域貢献を目指す、地域に根ざした工場にしよう」と目標を掲げた。(2010年4月カルビー(株)湖南工場に戻る)

地域貢献のためのキーワードは地産地消と雇用促進であった。

カルビー(株)は、1949年広島県で松尾糧食工業株式会社として設立された。1995年社名をカルビー製菓株式会社に変更、同年日本で初めて小麦粉を原料としたあられ菓子「かっぱあられ」を発売、1964年には小麦粉とエビを主原料とするロングセラー「かっぱえびせん」を発売する。ちなみに社名「カルビー」の由来は、カルシウムの「カル」とビタミンB1の「ビー」を組み合わせた造語である。1972年には、馬鈴薯を原料にしたスナック

『サッポロポテト』を発売する。現在、同社商品の約70%は馬鈴薯を主原料にしている。飴やチョコレートなどほかのお菓子には手を出さず、スナック菓子に的を絞って運営してきた。

したがって、同社が地産地消といえは地元で採れる素材をスナック菓子として商品化し、味、パッケージ、販売など構成するものすべてを県内で生産・消費することを指す。

つまりは、馬鈴薯である。実は20年ほど前までは、滋賀県でも馬鈴薯が栽培されていたのだが、2005年当時は、県下でスナック菓子の原料となる馬鈴薯を生産する農家はほとんどなかった。そこで、まずは馬鈴薯を作ってくれる農家を探すことから始めた。それが、先に紹介した契約農家のルート開拓を担当した川崎さんの話である。

『地域貢献とは』

カルビー(株)湖南工場の取り組みは、『地域に根ざした企業づくり』を企業理念に掲げるカルビー(株)の経営方針が反映されている。とはいえ、『しがじゃ

が』のように、地域ブランド商品が発売された例は、同社が事業本部や子会社を置くほかの地域ではほとんど例がない。「地域貢献」というと、山に入って草を抜いて、ということを思いがちで、活動が本業と結びつかないことはメーカーの悩みの一つです。それを見事に商品という形にされた。それも地域貢献と地産地消をミキシングされた、これはすごいことです」と辻村編集長は言う。

この『しがじゃが』の地域貢献への取り組みが評価され、環境省から「ストック温暖化一村一品大作戦2009エコロジスティクス賞(※2)『が、(財)淡海環境保全財団からカルビー(株)湖南工場に「CO₂ダイエットコンテスト



従業員の生活を反映させることが地域貢献なんです(沖本氏)

in おうみ(※3) 2008 グランプリ(滋賀県知事賞)』が授与された。2005年、湖南工場を分社化しカルビー(株)湖南工場が設立されたときに直接携わった沖本さんは、

「地域に根ざした工場にしたいとの思いから、工場のリニューアルに際しては見学ルートや商品開発のできる実験ラボ的な部屋を作りました」と5年前を振り返った。

そうして、独立したカルビー(株)湖南工場は、『地域に根ざした運営』を実現するために、商品開発担当者も『地域に根ざした商品づくり』を意識して開発に当たった。その結果が『しがじゃが』である。

「『しがじゃが』の成功をみて、いろいろな企業さんが自分のところもやってみようとされたし、滋賀県の農林課のほうも非常に活発に動いております。メモリアルな商品という印象が強い」と辻村編集長も当時を振り返る。

2008年9月、滋賀県の『おいしがうれしがキャンペーン』がスタートする。しかし、その時点では『しがじゃが』は



①見慣れたロゴの社屋 ②しがの馬鈴薯を洗浄 ③流れるようにポテトチップスに

「減反の畑で馬鈴薯栽培？」

すでに完売しており『おいしいしがうれしがキャンペーン』の第1期商品としては参加していない。

2008年、初めてこの地域で採れた馬鈴薯2.5ヘクタール分を湖南工場で生産処理するの1週間もかからなかったという。今後、生産規模を広げる予定はあるのだろうか。

「地域農家を増やしていきたいと考えています」

と川崎さんは語る。今年の年間収穫量は8ヘクタールの畑で200トンであった。目標数値は、1ヶ月100ヘクタール分(2,500トン)だと言う。ちなみ

に湖南工場で1日に処理できる馬鈴薯の量は約100トン、月20日間稼働すると2,000トン強になる。それくらいのリユームを今後、滋賀県で調達したいと考えている。今までカルビー㈱にとって空白地帯だった近畿地区で原料が採れるようになれば、フレッシュな商品を近畿地区の消費者に提供できるようになり、環境負荷にもなる輸送コストの削減も可能だ。

「減反で米に変わる作物として麦を作っている農家がありますが、馬鈴薯を作ってもらったらいいですね」との辻村編集長の提案に、

「われわれはそうしてくれたらうれしいです」とカルビー㈱湖南工場側はウエルカムの様子である。

「今年、非常に多くの生産者の方が、馬鈴薯に興味を示してくれています。その要因は、政権が変わり補助金の出方が変わったことにあります。補助金に頼らない作物として、馬鈴薯に関心が集まっているようです。減反の代替作物の選択肢の一つとして馬鈴薯があっ

てもいいのではないのでしょうか」と語る川崎さんの目は、将来を見つめている。

「地産他消」マーケティング的視点から」

マーケティング担当の芝野さんによると、カルビー㈱では、滋賀県だけでなく近畿2府4県を市場とみなし「地消エリア」と捉えた商品開発をしているという。すでにお隣の京都では、三寧坂にある七味家本舗(※4)の店頭で、名産の七味を原料としたポテトチップスをお土産として販売し始めている。これは、地産ではあるけれど地消ではない他消の商品だ。



地産他消も視野にいれ(芝野氏)

「われわれの商品や販路を使って、地域の伝統的な味を全国に広めていくことも、地域貢献の一つであると考えます。地域貢献ということを考えるときに、地消だけを考えると市場が狭すぎる」と芝野さんは指摘する。

それならば「しがじゃが」えび豆味は、珍しい味なので県外でも売れそうだが、全国区で売る予定はあるのだろうか。

「今のところ、県外に広げるつもりはありません。この商品の価値として、滋賀県で作った馬鈴薯を滋賀県で消費してもらうことを目的としています」と滋賀県限定販売を譲る気はないようだ。

消費者の声に耳を傾けると「滋賀県に来たときにたまたま見つけて買った」と喜ぶ県外在住者もいる。

「えび豆が、滋賀県の郷土料理として認識され、旅行に来た人たちがえび豆を食べて帰るくらいのものになれば観光にも一役買うことになります」と山方さんは郷土料理えび豆の知名度を上げることが提案する。



(右) イートーク竣工式会場
(上) 明るくピッキングしやすい場内



「カルビー・イー トーク株式会社 竣工」

2010年7月

湖南工場の隣で、カルビー・イートーク(株)が稼動した。同社は、キオスクや高速売店などで販売する『お土産もの』商品の梱包を行う会社である。従来は外注していた工程をグループ内に内製化した。イートークという社名にはいいコミュニケーションーションをとっている。障害を持つ人が社会参画して、社会とつながることのできる場となればと設立

生産者の声

された。先の京都の七味のポテトチップスは、同社で梱包される。

一年目は、馬鈴薯栽培農家が野洲にしかなかったので、『しがじやが』のパッケージに『野洲』と記されていた。その農家さんが平和堂の店頭で、自分の畑で採れた原料からできた商品をお客さんが買っているのを見て、「おいしい」という声を聞いて、「これはもうやめられへんなあ。だまされたけど、やめられへん」と言ったという。



工場にて、表彰盾を手に、馬鈴薯も。センターは新キャラクター。お名前募集中。

いる。地域に根ざした運営をめざすカルビー(株)湖南工場は、滋賀県の中でどのような企業に発展していくのだろうか。今後の展開が注目される。

※1 おいしがうれしがキャンペーン
滋賀県と食品販売事業者等が協働して、地域で生産されたものを地域で消費する『地産地消』を推進する運動。毎月、第3日曜日と前日の土曜日を中心にキャンペーン加盟店で展開している。

※2 ストップ温暖化一村一品大作戦2009 エコロジスティクス賞
2007年に始まった環境省と都道府県地球温暖化防止活動推進センター、全国地球温暖化防止活動推進センターによる3カ年事業。都道府県地球温暖化防止活動推進センターが中心となつて、地域の創意工夫を活かした優れた温暖化対策の取り組み(一品)をとりまとめ、地域の温暖化対策の一層の推進を図ることを目的とする。

※3 CO2ダイエットコンテスト in おつみ
(財)淡海環境保全財団が主催し県が後援している取り組み。2030年温室効果ガス排出量の50%削減を達成するために、家庭や企業、NPO、自治体が連携して地域ぐるみで取り組みの環を広げることが目的とするコンテスト。各地域で自主的に行われている地

球温暖化防止に向けた取組み(CO2ダイエット活動)を募集し、優れた取り組みを表彰、奨励する。また、最優秀の取り組みは、県代表として全国大会派遣される。

生きる幸
滋賀の本
地のもんは
うまい
山方政雄

●おきもと かずゆき
ルビー株式会社日本事業本部湖南工場長

●やまがた まさお
ルビー株式会社湖南工場 生産支援課生産支援チーム

●カルビー株式会社湖南工場 / 〒520-3023 滋賀県湖南市柑子袋558番地

※4 七味家本舗
株式会社七味家本舗(京都市東山区清水二丁目産寧坂角)、創業350年の老舗の七味屋。七味や山椒、一味などを販売している。

生る者ととも
川崎滋生
地域の価値を
ブランドに
芝野康雄

●かわさき しげき
ルビー株式会社日本事業本部 企画課課長

●しばの やすお
ルビー株式会社日本事業本部 近畿マーケティング課

●カルビー株式会社日本事業本部 / 〒530-0003 大阪市北区堂島2-4-27 新藤田ビル18F

ダンボール安土城築城 プレイベント①「あづち信長まつり」



映画『築城せよ』から始まった「ダンボール安土城製作委員会」。

ダンボールで城??意外な組み合わせ。ダンボールという身近にあるエコ製品を素材に、住民の住民による住民のためのオリジナルな城をつくる。まさに「エコ+苦勞+工作+絆」。築城アリ落城アリ炎上アリ水攻めアリの爽快イベント。あなたの街でもトライしてみませんか?ドキュメントでご紹介しましょう。

【会場全景】

安土城址(安土山)麓の「あづち信長まつり」の二画(写真①)

・手前の白い壁が、愛知工業大学の学生さんが製作したダンボールの迷路。子どもたちにとっては、背丈より高い壁に囲まれた不思議な空間で走り回っています。

■2010年6月6日
■レポート／中西大輔
■写真協力／井関智子、中西大輔

ました。

・奥に立っているのが、安土城天守閣の上部2層をイメージして製作したダンボール安土城。高さ4m。

天守閣へは、手前の迷路を抜けて到達できる仕組み(：最初はそういうことになっていました。)

・写真左上に、多くの人で賑わっているのが、「あづち信長まつり」のメイン会場。ステージ発表など様々な催しが行われました。

・写真右上に、人が登って行くのが見える(青色のテントの上)のが、安土城址(安土山)の入り口。戦国時代は、この山の山頂に高さ45mの天守閣がそびえていました。

【ダンボール安土城】



守閣は、2層目が八角形をしているのが特徴で、四角形の最上部に、八角形の屋根を取り付けるのが「苦労でした」。左がその内部（魚眼レンズで撮影）。内部は壁の高さが2m、天井部分で約3mあり、子ども達はもちろん、大人も十

写真②がほぼ完成した外觀。天守閣の上部「層部分」をイメージした「ダンボール安土城2010年バージョン」。

「ダンボール安土城ができるまで」

分入れます。天井部分は4本の柱（ダンボールの管）で支えていて、その柱に柵を付け、高さ50cmほどのダンボールの安土城の模型を展示。（この模型の上層部分が今回作った部分です）この柱も模型も、この後、子ども達によって破壊されてしまいました。

◆八角形の土台作り（次ページ写真⑤）

・天守の二層目、八角形の壁面の土台を作っているところ。どうしたらうまく「正八角形」になるのか考え中。右（次ページ写真④）は前日に作っておいた天守の最上部の屋根。

◆八角形の壁面作り（次ページ写真⑥）

・子ども達が、自分で組み立てたダンボール箱（大・中・小の3サイズ）を、土台の上に積み上げて、八角形の壁面を作っていきます。大きさが違う箱をどう組み合わせるとよいか、バズルのよう。窓もつくらないといけないし…。

◆八角形の屋根作り（次ページ写真⑦）

・一番の難関、八角形の屋根をつくっているところ。四角形の天守最上部に八角形に広がる屋根を取り付けるのですが、



なかなか上手くいぎません。ミニチュアでは数ミリの誤差が、このサイズになると数十センチの隙間になったり…。

◆完成間近(写真⑧)

子ども達が積み上げたダンボール箱の壁面に屋根を乗せてほぼ出来上がり。せっかく作った屋根(張りぼて)が崩れないようにゆっくり乗せます。あとは、内部から屋根を支える柱(ダンボールの管)を取付け、壁面外側の隙間を埋めて正八角形に整えればできあがり。(前ページ参照)

◆内部と「お江さん」

内部はこんな(写真⑩)感じ。この後、柱も模型も無惨な姿になります。

・「あち信長まつり」の武者行列から、来年の大河ドラマ「お江」さんに扮した女性が駆けつけてくれました。ほぼできあがった天守閣をバックに記念の一枚(写真⑪)。

◆落城寸前

・時間とともに、手前にあった迷路はこんな感じで(写真⑬)子ども達に破壊され、やりたい放題に…。なんとかお城は無事か?と思ったら、なんと子どもが持っている筒は、大切な安土城の屋

根を支えていた内部の柱(写真③参照)。あわや落城…冷や汗が出た瞬間でした。

「ダンボールもいろいろで」

◆ダンボールの鎧兜と刀(ついでに募金活動)

・安土城の天守を作っている間に、子ども達は、まずダンボールで鎧兜と刀を作成。薄手のダンボールを折り紙にして兜を折ります。鎧はダンボールを巻き付けて…。この場所は、この後、親子クラフト広場と化し、お祭りが終わるまで、ダンボールを使って思い思いの工作を楽しむ約200人の親子で賑わいました(写真⑫⑬)。

写真⑭は、会場でイベント参加と、今後の本格築城に向けてカンパを呼びかけるスタッフ。もちろん募金箱もダンボール製。右のスタッフが「なぜ牛なのか?」は秘密。

「強者どもが」

◆落城前に記念撮影(写真⑮)

・ダンボール安土城築城プレイベントのスタッフ一同。子ども達に破壊される前に

記念の一枚。

◆後かたづけ(写真⑯)

・遊んだ後はちゃんと後かたづけをしましょう。ダンボールは100%リサイクルできるので。

そしてなんとと言っても、ここは国指定の史跡の中。ゴミを捨てたり、汚したりしたら大変…。

来年もダンボール安土城の築城に向けて準備を進めています。ご協力、ご参加お願いします。



山がピンチ = 人間もピンチ

の巻

作カキ

日取近の日本の気候は、

亦々

亦々

亦々

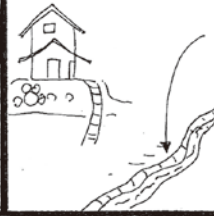


短時間に局地的に
どどどと雨が降ったり、

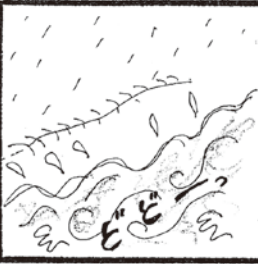


カンカン照りが
続いたり、
竜巻が起ったり。

オノミユキ峠の横に
小さな谷があるのだが



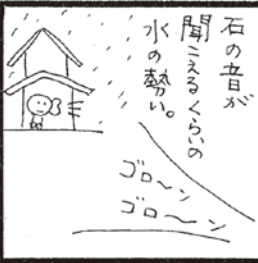
今年の梅雨の高雨時、
決壊寸前にまで増水。



しかも、どろどろの
濁った水。



家の中にも
谷を流れ転がる
石の玉が

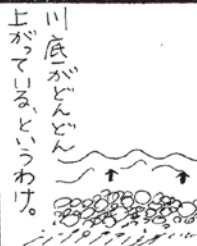


雨のあと、谷を見て
みると、



川底には土砂がいっぱい
たまっていた。

つまり、山からの土砂が
流れたつまり、



川底がどんどん
上がっているというわけ。

川ばかりでなく、
崩れた山の土砂は、
道路にも流れ出でて



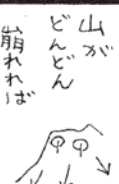
うちの集落までの道も
土砂崩れで、一晩
通行止めになった。



なんでこんなに



山が山崩れるのサ



山が
どんどん
崩れれば



オノミユキは考えた。
 なんでこんなことに
 なってしまったのか。
 うん

そして、10年前の朽木の山
 を、思い出して見た。

10年前：本林の中には
 大きな木と共に、小さな
 木や草が沢山生えていた。

ところが今は、
 木の下にはほとんど
 草が生えておらず、

生えていなくても
 同じ種類のものばかり。

な…なんでやねん
 ？？

それは…草たちが
 この方のエサになっ
 てしまってるから！！

エ？ホク？

なんと、シカたちが
 森の草や木々をどんどん
 食べてしまっているのだ。

ガツガツ
 シヤシヤ

しかもシカの数は
 増えており、今まで食べて
 いなかった種類の草や、
 木の皮にまで手を出す
 始末！！

草が生えず、スカスカに
 なった森は、根の力が
 弱まる。

そして大雨が降ると、
 土砂をおさえきれず、
 流れてしまう…

と、いうわけだ。

山がこんなになったのは
 オマエのせいだ！

だって
 シカが増えた
 のは、
 人間のせいだろう！
 人間が狩りやらないで
 おもちゃのトランプ
 なんてやらないで！！

私達のせい…？
 ース…？

シカが増えた原因

- ① 猟師の減少。
- ② オオカミの絶滅。
- ③ 森林の無断な開発。
- 地球温暖化・降雪量減
- ← 越冬できるシカの増加。
- ④ 森林破壊でエサが減少
- 田畑への出沒
- 栄養豊富で強いシカ
- …だからある。

じゃあ、土石くずれとか川の
 増水とかも、人間による
 被害とかも、いえるの？

その後、この山の状況を
 何とかするべく、オノミユキは
 山奥にこもって、思案中。

「はんで
 ヒゲが
 のびるぞ」

うーん…
 マダヒゲ、求む！！

●オノミユキ(本名加藤みゆき) 1974年生まれ、滋賀県彦根市菅町育ち。
 1997年に朽木村(現高島市)に移住。朽木の自然行事、人間などを3冊の本にまとめ出版。現在は2人の子やもを子育て中。

猫の嫁さま

畑 裕子



イラスト：徳永 拓美

猫が登場する絵本や童話は世界にたくさんある。テレビにも人気者の猫が登場したり、昨今では「猫カフェ」が開店したり、猫の人気はとどまるどころを知らない。我が家でものら出身の14歳になる三毛猫を飼っている。猫は忠実な犬に比べて気ままこの上ないといわれるがさて、どうであろうか。

老母と弟が住む実家にも白い猫がおり、シロちゃん、と呼ばれ、かわいがられている。手のひらに載るくらいの小猫を拾い、母が哺乳瓶で牛乳を飲ませ、育てた猫である。今や堂々とした猫に成長し、我がもの顔にふるまっている。

たまに実家に帰ると、まるで侵入者がやってきたかのように恐ろしい顔でフウと威嚇し、ともすれば引つ掻きにくるのである。実家から車で五分の所に住み、毎日、朝夕、母の様子を見にくる妹にさえ、何年経っても馴れることがない。外敵を守るのが自分の役目と思っているようなのだ。

一方、老母はむろん、弟が帰宅すると

必ず迎えに出て、その甘えた仕草は幼児か、お嫁さんのようだ。そんな様子を見るたびに私はヨーロッパに伝わる『長靴をはいた猫』の話を思い浮かべる。私が幼い子どもたちに読み聞かせしたのは、フランスのシャルル・ペロー版ではなく『グリム童話』の中の一話だった

が、幾度となく「これはカラバ侯爵さまのものです」と猫が嘘を言い、最後には男と王様の姫を結婚させ、幸せにする話だった。私たち母子は「これはカラバ侯爵のものです」という猫の自信に満ちた言葉がおもしろくて何度もその会話を繰り返して、喜んだものだった。

弟に忠誠心を抱くシロに向かつて私は言う。「シロ、あなた長靴をはいた猫のようにご主人さまに素敵なお嫁さんを探してきてあげてよ。あなたがお嫁さんではどうにもならないもの」。シロはわかったような顔をして私を見ているが、未だ実行されていない。

老母などは七夕さまの短冊に「息子によいお嫁さんがきますように」と毎

年、願い事を書き、吊るしている。結婚するもしないも本人の自由、というものの昔人間である母は「あの子にお嫁さんがきたらいつ死んでもよい」などと口にしてはいる。

格差社会ということが言われ始めてからもう何年にもなるが、都会と田舎の格差は結婚についても現れているようだ。私の故郷では自らの意志で結婚しないのではなく、結婚したくても結婚できない男性が少なくないのである。彼らの多くは老親と暮らしている。そんな男性を狙って結婚詐欺師が出没したりしている。

『長靴をはいた猫』に登場する貧乏くじを引いた男が幸せになる話や、日本の昔話によくある孝行息子が幸せになる話は、読んでいて楽しく、夢がある。地方の人々の間に生まれ、長く語り伝えられてきた話にはヨーロッパ、日本を問わず民衆の願望が込められている。

畑裕子

●はた ゆつこ 1948年京都府生まれ。奈良女子大学文学部国文科卒業、京都で国語教師を勤める。その後、滋賀県に転居。1993年・第5回朝日新人文学賞受賞、1994年・第14回地上文学賞受賞、滋賀県文化奨励賞受賞。主な著書「画・変幻」「近江百人一首を歩く」「椰子の家」「近江戦國の女たち」など。日本ペンクラブ会員。

徳永拓美

●とくなが ひろみ 1949年生まれ。日本画を学び、日春展、京展、新興展、滋賀県展に入選を経て挿絵も描く。「いぶきのやざいどうつ」(京都新聞社)、「守山の野鳥ガイドブック」(守山市立教育研究所)、「甲賀のむかし話」(サンライズ出版)、「イルカをおそった黒い波」(汐文社)など。レイカディア大学「手作り紙芝居講座」講師。

「日本」について学ぼう

その三

井上 昌幸



今回も日本の歴史や伝統について学んでいきたいと思
います。

◎ここで安岡正篤先生著「小学」から、一部を抜粋しながら
説明していきます。

「小学」は人間生活の根本法則であります。だから昔か
ら幼児を教えるには「小学」から学ばせることが大切です。
人間生活の基本は何と言っても「道徳」であって、その「道
徳」の基本的な情緒を培養して初めて人間生活は発達しま
す。何ごとも、学ぶためには基礎知識がなければなりません。
基礎知識がなくては学問は身につきません。何ごとか
を進めていくためには原理・原則があります。基礎条件、根
本法則、ルールというものがありません。これが「小学」であ
ります。

その基本となるのが灑掃せいそう・應對・進退です。灑掃というの
は板の間や床を四つんばいになって雑巾がけをすることです。
今は雑巾がけをすることがなくなつたので、整理・整頓
・清掃することです。例えば玄関で靴を脱いだ時に靴がき
ちんと並べられているか、また椅子から立ち上がった時に椅子
をきちんと元の位置に戻せているかを自分自身の行動か
ら見直してみてください。そして今から実行しよう。

●靴を脱いだ時に靴をきちんと並べよう。

●椅子から立ち上がった時に椅子をきちんと元の位置に
戻そう。

次に応対ですが、人間は応対によって泣いたり笑ったり、すべったり転んだりしていると云ってよいでしょう。人生はほとんど応対だと云ってよいのです。喜怒哀楽はこの応対によって起こってきます。この応対を身につけることが大切です。

近江聖人・中江藤樹先生は「五事を正す」ことを弟子や村人に教えられました。五事とは貌・言・視・聴・思即ち身体全体の様子、言う事、視ること、聴く事、それから心に思う事、この五つを云います。

五事を正す

貌 和やかな顔つきをする

言 思いやりのある言葉で話しかける

視 優しいまなざしでものごとを見つめる

聴 耳を傾けて人の話を聴く

思 まごころこめて相手のことを思う

次に進退ですが、いかに進み、いかに退くか、人間というものが出かたがあり、引きかたがあります。いつやめるかということが大事なことで、腐った果物みたいにしがみついているようなのは、これは生き恥であります。

また親を愛し、先生や先輩を尊敬し、友達と親しむことは「大学」の中書かれている「修身・齐家・治国・平天下」をすすめていくための根本であって、これを幼稚のとき

に習わせるという事が大事なのです。

「修身」とは自らが修養することであり、「齐家」とは家庭をなごやかにすることであり、「治国」とは国を治めることであり、そして「平天下」とは「修身・齐家・治国」がうまくいって初めて世の中がうまく収まるといふことです。

残念ながら現在はこのような基本的なことを忘れてしまつて、自分さえよければそれで良いのだという考えが主流になりつつあるように思われます。

人間は絶え間なく「灑掃・応対・進退」について練磨・努力すれば、それが身に付いて無意識的に行動するようになります。

我々の正しい生活とは「習慣の織物」といっても良いでしょう。従つて子供の頃に良いしつけを身に付け、大人になつてもよい習慣をつけることが何より大切であります。

井上 昌幸

●いのちえ まさゆき1940年1月1日生まれ。現在、滋賀県異業種交流連合会会長、STEP21(滋賀県シニアテクニカルエンジニアリングパートナーズ企業組合)専務理事、関西師友協会生活学塾講師、大津木鶏クラブ代表世話人、近江素交会代表世話人

〈商家の家訓の話 第14回〉

陽徳から陰徳へ、 塚本定次・正之兄弟の 治山治水事業

末永 國紀

晩年の勝海舟の語録を集めた『水川清話』は、日本史上の著名人についての遠慮のない人物論を含んでいる。そのなかでは、近江商人と芭蕉の関係についても言及されている。とくに、海舟と交流のあった塚本定右衛門定次と弟の正之のことが次のように紹介されている。



塚本山碑（山梨市三富）

正之は滋賀県下の山林のためにといって県庁に2万円ほどの資金を預けているという話をした後、海舟に語ったという定次の次のような言葉をそのまま記している。

この二万円がなくなる時分には、山林も大分繁殖して参りましょう。

だが、私はとてもそれを見ることは出来ません。しかしながら、天下の公益でさえあつたら、たとえ自分が一生のうちに見ることが出来ないとしても、その辺は少しも構いません。私は今から五十年先の仕事をしておく積りです。

この言葉を聞いた海舟は、「なかなか大きな考えではないか。斯様な人が、今日の世の中に幾人あろうか。日本人もいまま少し公共心というものを養成しなければ、東洋の英国などと気取っていた所で、その実はなかなか見ることは出来まいよ。」と、賛嘆している。同時代人に対しては、辛らつな批評の多い海舟であるだけに、珍しい記述として注意を引くのである。

海舟に褒められた定次・正之兄弟の滋賀県内の治山治水事業への寄付行為は、史料として残っていて、きちんと跡付けることができる。例えば、明治27年（1894）から同40年にかけておこなわれた琵琶湖へ流入する河川に築かれた堰堤や植林事業は、滋賀県庁と連

帯しておこなわれ、湖東・湖西・湖南・湖北の全県下におよんでいる。

その総面積260町5反3畝26歩の工事は、5万7056円に上った。県費と塚本家の出資割合は、2対1であり、塚本家は1万9000円余を負担したのである。伊吹山麓の三谷尻川の土砂拵止工事の恩恵を受けた東浅井郡七尾村相撲庭（現、長浜市）には、村民による塚本兄弟の顕彰碑が静かに建っている。

また、塚本家による治山治水事業には、山梨県東山梨郡三富村（現、山梨市）での植林事業がある。植林のおこなわれた山を山梨県は「塚本山」と命名した。それには、以下のような事情があった。

山梨県下では、明治40年8月の豪雨によって笛吹川などの河川が氾濫し、2万戸が流出し、浸水家屋も1万5000戸を超える被害をうけた。さらに同43年の8月にも再び豪雨によって、甲府市では市内の三分の一が浸水被害をうけた。この水害の後の県民の要望に応えて、明治44年に皇室林30万町歩が洪水対策として山梨県に下賜された。この年、甲府店創業100年目に相当した塚本一統は、

父祖の地の水害に心を痛め、塚本合名会社の名前で山梨県へ植樹費用1万円を寄付した。

山梨県は、この寄付金を明治天皇から下賜された県有林の植樹費用にあてることにし、その県有林の笛吹川上流一帯を「塚本山」と名付けたのである。大正2年（1913）からはじまった植林では、杉・唐松が植えられ、同4年に完了した。

その後、山梨県は「塚本山」の保育作業を続け、昭和27年（1952）の調査によると総蓄積3万2370立法メートルの立派な森林に成長した。現在は、三面に節のない優良材が採れるまでになっいて、大型ヘリコプターを使って搬出されている。

植林から100年以上を経た現地の森林には、塚本家の顕彰碑がひっそりと建っている。陽徳として、はじめはよく知られた美拳も、年月とともに誰も知らない陰徳に転じていくことの一例である。塚本兄弟は、海舟に語った言葉の真実を身をもって実現したのである。

定次は、明治33年3月1日に認めた「遺言書」のなかで、陰徳善事について次の

ようにふれている。神社仏閣や学校教育などの慈善事業へ適当に大金するのは構わないが、その方法については当主、同族、相談役が慎重に協議して諮ること。慈善事業は、単に金を出せばよい、というものではなく、一族の繁栄と家業の永続のための祈祷と心得なければならぬからである。事業に成功して富を得たとしても、支えてくれた人々への恵の心がなければ、長続きしないものである。長久に栄えるためには、陰徳善事によってその徳を施すにかぎること。これは、天地の道理であり、古今の歴史に例は多い。このことをよく弁えておくこと、と念を押している。

近江商人に学べ 末永國紀

●すえながくにとし1943年生れ。同志社大学経済学部教授。経済学博士。（財）近江商人郷土館館長。

著書『近代近江商人経営史論』（有斐閣）、『近江商人』（中公新書）、『近江商人入門』（サンライズ出版）、『日系力ナダ移民の社会史』（ミネルヴァ書房）



旧余呉小学校、映画のロケにも使われました

環人会ツアーVol.13

新緑の余呉 魅力まるかじりツアー

- ◆日時 / 5月29日(土) 10:30~16:50
- ◆場所 / ウッディパル余呉 旧余呉小学校
残景寺べんがら座 小劇場弥吉
余呉湖
- ◆集合 / 余呉駅
- ◆参加 / 15名
- ◆報告 / 西村和洋(近江環人3期生)



メンバーで記念撮影



「新緑の余呉 魅力まるかじりツアー」行程

- 余呉駅集合
- ウッドイバル余呉 辻川支配人、前川さんからのお話 (森林文化センター)
「ウッドイバル余呉や余呉芸術村についてなどなど」
- ウッドイバル余呉 (工房、アウトドアなど) 施設見学
- 意見交換・交流会
- ウッドイバル余呉にて昼食 (地場野菜の田舎料理バイキング) 及び休憩
- 旧余呉小学校見学 (廃校校舎の活用事例、木造講堂等)
- 残景寺べんがら座 (ギャラリー) 意見交換) 見学
- 小劇場弥古 (古民家再生事例) 意見交換) 見学
- 余呉駅にて解散

- ①ウッドイバル余呉研修館 ②教会を思わせる構造が美しい
- ③レストラン ④山の幸をふるさとの味でリーズナブルにご提供
- ⑤清冽な川と深い山。厳かな気分にご…
- ⑥洞壽院の御札。ご利益ありそう! ⑦支配人の辻川氏
- ⑧案内人の藤川氏

「余呉」というと皆さん何を連想されますでしょうか？

「余呉湖」「賤ヶ岳」「自然が豊か」「豪雪」、こんなところが一般的には思い起こされることかと思えます。今回はそんな「余呉」が実は文化の香りあふれる、雅やかな地域であることをお伝えして「環人会ツアーin余呉」の報告とさせていただきます。

ちなみに行政区画としては、平成22年1月1日に東浅井郡虎姫町、湖北町と伊香郡高月町、木之本町、西浅井町とともに旧余呉町は長浜市に編入されました(地名上は例えば「長浜市余呉町中之郷」と表記するなど残っています)。

さて今回の環人会ツアーは余呉の魅力を存分に味わうべく、「余呉の達人」ウッドイバル余呉の前川和彦さんに案内をお願いしました。

まずウッドイバル余呉では支配人の辻川作男さんから同施設の現状と芸術村IN余呉について、また将来の事業展開やNPOのあり方についてまで幅広く語っていただきました。地域資産の再認識、地域との協働・連携、地域と



①同壽院近くにある清水。琵琶湖の水はココから生まれる ②べんがら座にて大工でエンターテイナーでデザイナーの僧侶からお話を聞く ③アトリエ ④弥吉のギャラリーで「宮澤賢二の切りえ展」を見る ⑤弥吉の倉では、ミニギャラリーが

共に成長していく施設として今後が非常に楽しみと感ぜられる内容でした。

次に名刺「洞壽院」をへて旧余呉小学校へ移動です。現在廃校となり、その呼吸を止めている同校を何とか有効活用できないかということで、昨年にはコンペも行われております。同校は集落の中の小高い場所であり、大変見晴らしもよく、どこかしら仄かな温かみがかたが舎全体に感じられました。初めて入ったのにそんな気がしないこの独特の懐かしさ何かに生かしていけないものかと思いました。

さらに「べんがら座」さん、「弥吉」さんを訪問してきました。そこで感じたことは古民家をこういう風に利用していくのもありなんだ、ということ。古民家再生、ということと居住を前提と

しがちですが、「地域小劇場」として活用するというのは、その家族だけでなくさらに面的な広がりをもって地域の人々の心を豊かにすることが出来るものなのだと感じました。大きなホールでは敷居が高くて参加できない一方で近所にこういう施設があれば、平日の夜でも家族揃って演奏や演劇を楽しめる（ちよっとヨーロッパみたいな感じで）暮らしができそうで、とても贅沢なことだなあと羨ましくも感じました。

余呉というところと正直なところ湖北地域の中でも「雪が多い」「高齢者が多い」「交通が不便」など、ついついパターン化された先入観をもたれている事が多いと思います。でもそんな「余呉」も一歩足を踏み入れてみればそこはまさに別天地、ステレオタイプのマイナスイメージは逆転してしまうほど底知れない魅力があることをこの研修会で思い知らされました。

次回(10月23日(土))は「南河内町歩き」集合は近鉄富田林駅、11時30分。問合せは横関万貴子(090011900117540)まで。

「秋の夜長を楽しむ夕べ」

20年近く、くつきの森をフィールドに研究を続けておられる、
滋賀県立大学の籠谷先生。
研究者の目で見たと、森の今と昔、急速に進む里山の荒廃が問題となっている現在、
先生のお話の中から里山再生のヒントを見つけたいと思います。
II部では、神戸で歌声喫茶をやっておられる米村博実さんの
アコーディオンの演奏と軽妙なトークを聞きながら、
朽木に伝わる里山料理をバイキングで味わって下さい。

日時 平成22年9月25日(土) 13:00~20:30

場所 滋賀県高島市朽木麻生443 森林公園「くつきの森」やまね館

日程 **I部 開会** 13:30

●講演&座談会 13:45

「里山林の植生とはたらきはどうかわってきたか
(くつきの森での長期生態系研究)」

講師:滋賀県立大学 環境生態学科 助教 籠谷泰行氏

●散策 ご講演いただいた籠谷先生とくつきの森を散策。 16:00

籠谷先生の研究されている現場にも

閉会 17:30

II部 開会 18:00

●「むつみ会の朽木里山料理夕食会」

朽木のおばちゃんたちの心のこもったお料理(バイキング形式)
をアコーディオンの演奏と軽妙なトークを聞きながらお楽しみ
下さい。

アコーディオン演奏&トーク:米村博実氏(ニックネーム トンボ)

閉会 20:00

参加費 I部 500円(千年椿の湧き水珈琲付き) II部 2,000円(夕食代込み)

定員 100名(定員になり次第、締め切らせていただきます)

申し込み締め切り 9月20日(月)

お申し込み方法 申込用紙にご記入の上、郵便、FAX、メールのいずれかでお申し込み下さい。

お申し込み・
お問い合わせ先

NPO法人 麻生里山センター

〒520-1451 滋賀県高島市朽木麻生443番地

TEL.0740-38-8099 FAX.0740-38-8012

Eメール asosatoyama@zb.ztv.ne.jp

URL 「森林公園 くつきの森」で検索

[主催] NPO法人 麻生里山センター

[協賛] M・O・H通信 高島森林体験学校

「田舎暮らしフェスタ」

私たちは、移り住むなら滋賀県・湖北を合言葉に、すぐれた自然環境をもち、歴史と文化の宝庫でもある湖北地域への移住・交流居住を活発にしてゆきたいと考えています。

今回は滋賀県米原市の姉川上流・奥伊吹の分校を主会場に、
田舎暮らしフェスタを開催いたします。

湖北という地域に興味がある方、田舎暮らしにあこがれをもっておられる方、
移住先・交流居住の場所を考えておられる方のご参加をお待ちしております。
お気軽にご参加ください。

日時	平成22年9月26日(日)	11:00~16:00
場所	滋賀県米原市甲津原	東草野小中学校甲津原分校
日程	開 会	11:00
	●湖北の魅力、語ります!	13:00
	地域づくり団体や移住者が湖北の生活・文化などその魅力について語り ます。	
	●田舎暮らしトークショー「しがの未来のエコトピア」	14:00
	京都・嵐山でエコトピアを造り上げた森孝之さんと循環共生社会システム の研究をされている内藤正明さんのお二人に「しがの未来のエコトピア」 と題してお話しいただきます。循環型生活のはじめの一歩に!	
	●ブース展示	
	湖北の住まい、仕事、味覚、歴史、文化など、聞きたい、知りたい情報が手に 入ります。貸農園や農業体験などの申し込みコーナー、移住実践者のアド バイスコーナー、湖北の食コーナー、木工体験コーナーなども盛りだく さん。50ブースが一堂に並びます。	
	閉 会	16:00

フェスタは入場無料。申し込み不要です。

体験プログラム(要予約・体験料別途)もあります。

・町家再生魅せます★ ・古民家で移住を語ろう ・炭焼き体験 ・田舎暮らし体験&移住経
験者と語る ・石仏の里 吉槻 ・甲賀行こうか ・石臼の里 曲谷 ・空き家見学会と田舎の
ごっつおバイキング

体験プログラムの
お申し込み・
お問い合わせ先

いざない湖北定住センター(実行委員会事務局)

〒526-0056 滋賀県長浜市朝日町8-23

TEL.0749-50-1019 FAX.0749-50-1018

Eメール cohok-style@letto.eonet.ne.jp

※電話による受付時間は平日9時~18時

[主催] 湖北田舎暮らしフェスタ実行委員会

[協賛] 朝日新聞大津総局、毎日新聞大津支局、読売新聞大阪本社、産経新聞大津
支局、中日新聞社、京都新聞滋賀本社、日本経済新聞社大津支局、NHK大
津放送局、KBS京都、BBCびわ湖放送、エフエム滋賀

～生活・産業・技術などの側面から～
「持続可能社会を展望する」

NPO-EEネットは「びわ湖環境ビジネスメッセ2010」にて
MOH通信と共催によりセミナーを開催します。
本セミナーでは、いよいよ経済至上主義社会が終焉し持続可能社会への移行が
具体的に論議されようとするとき、持続可能社会像の有様を探り、
実現へ向かっての過程を明らかにします。
また激動の変革を乗り越え得る新しい価値観を探ります。
皆様のご参加をお待ちしております。

日時	平成22年10月21日(木)	13:30～16:00
場所	滋賀県立長浜ドーム セミナー室2 (JR琵琶湖線田村駅から徒歩5分 JR米原駅～長浜ドーム～JR長浜駅を結ぶ無料シャトルバス有)	
日程	開会	13:30
	●講演1 持続可能社会の姿をどう描くか ～生活・産業・技術などの側面から～	13:40
	●講演2 地域から始まるスマートコミュニティ 柴田 政明 (株)エイワット代表取締役、NPO-EEネット理事長	14:40
	●講演3 新時代への覚悟の時 森 建司 M・O・H通信代表、新江州(株)代表取締役会長、NPO-EEネット会長	15:20
	閉会	15:55

参加費 無料

定員 80名(お申し込み順)

お申し込み方法 参加申し込みは琵琶湖環境ビジネスメッセホームページよりお
願います。

お申し込み・
お問い合わせ先

NPO-EEネット 担当 河合
〒540-0011 大阪市中央区農人橋2丁目1番30号八木ビル4階
TEL 06-6947-7406 FAX 06-6941-8352
Eメール info@npo-eeenet.jp
URL http://www.biwako-messe.com/seminar/portal/event_view/**

[主催] NPO法人-EEネット

[共催] M・O・H通信

[後援] (予定) 近畿経済産業局、滋賀県中小企業家同友会、京都中小企業家同友会、大阪府
中小企業家同友会、兵庫県中小企業家同友会、奈良県中小企業家同友会、和歌山県
中小企業家同友会、一般社団法人バイオビジネス創出研究会、NPO法人湖北エコ村
デザイン協会、龍谷大学エクステンションセンター、立命館大学研究部理工リサーチ
オフィス

ドキュメンタリー映画「空想の森」 上映会にご参加ください!

10年の歳月を経て撮影した田代陽子監督の初メガホン作品。「日々の何でもない生活が妙に愛おしく、夢中で撮影した北海道新得で暮らす人たちの物語」。ラストシーンは大自然の懷に抱かれたような深い開放感が醸し出されてとても印象的。当日は田代陽子監督も来場。いろいろな年代の、いろいろな生活をする人たちが交流できる場としたい。活動紹介のスペースもあり。

日時 2010年10月23日(土)

上映1回目10:30~12:40 2回目13:30~15:40

場所 大津友の家 大ホール 「空想の森」上映
台所 食事と喫茶
小ホール 活動と交流の場

※共働学舎のチーズも販売する予定

チケット 一般/前売券 1000円 当日券/1200円
中高生/前売/当日共 500円

問合せ先 中居敦子 090-4289-3538

主催 大津友の会「空想の森」上映有志の会



- email:lapismons@gmail.com
- http://harunamusic.blog69.fc2.com/
- 主催/Lapis mons
- 月に一度コンサートはいかが?石山高校音楽科卒業生を中心に2010年結成。ラピス=石、モン=山がユニット名の由来。滋賀県を中心にコンサートや音楽系イベントの企画・運営・出張演奏をおこなう。参加者も同時募集中。

◆しが棚田ボランティア募集

- 日時/9月19日(日)熊野地区、10月17日(日)畑地区、10月30日(土)平尾地区、11月以降曲谷地区
- 申し込み/FAX0748-46-5812
- email:tanada@kitai.jp
- http://www.pref.shiga.jp/g/noson/tanada/
- 事務局/キタイ設計☎0748-46-2618
- 棚田をみんなで体験しましょう。作業が終わった後のお楽しみも…。交通費、食費は自己負担です。

◆モデルハウスもりいえセミナー & ワークショップ

- 日時/9月12日(日)、10月17日(日)、11月14

◆仰木里山暮らしの木工市

- 棚、テーブル、花瓶、ギター、おもちゃ、時計、食器・手作りの木製商品が勢ぞろい。木と遊んだり、クッキーを食べたり楽しい時間。
- 問合せ/暮らしの木工市実行委員会 ☎077-525-4097
- http://ougisatoyama.shiga-saku.net

◆旧大津公会堂街なか JAZZメモリー

- 日時/9月25日(土) 18:30開場19:00開演
- 場所/大津市浜大津旧公会堂 3階ホール
- 料金/2500円
- 主催・問合せ/大津グリラル☎077-527-0011、CANTINETTA☎077-510-3636
- 大塚善章ニュー・クインテットがやって来る。旧公会堂と同じ年の関西を代表するジャズピアニスト大塚善章さんがお気に入りの気鋭メンバーで昭和9年に誘う。

◆滋賀県若手芸術家集団Lapis monsラピスモンコンサート

- 日時/9月12日(日) 14:00開演入場無料
- 場所/旧大津公会堂 大津市浜大津町 1-4-1 ☎077-522-8220
- 問合せ/中村080-4020-5964、

- 場所/滋賀県立陶芸の森MIHO MUSEUM、甲賀市信楽伝統産業会館 信楽まちなか
- 主催/信楽陶芸トリエンナーレ実行委員会 〒529-1851 滋賀県甲賀市信楽町長野120
- 0748-82-1153 FAX0748-82-3415
- http://tri.shigaraki-sp.com
- 訪れる×迎える＝生まれる。陶都「信楽」をフィールドにしたく体感アートウオーク。やきものまちなか信楽を満喫しながらまちを散策。秋の一日は信楽へ。

◆ダンボールde古代ムラをつくろう(仮)

- 日時/11月
- 場所/兵庫県加古郡播磨町 県立考古博物館
- 問合せ/播磨町福祉グループ ☎079-435-2362f FAX079-435-0631
- email:fukusi@tawn.harima.lg.jp
- /明石原人でおなじみの兵庫県播磨町大中(大中)遺跡。そのふるさとに、ダンボールで古代ムラを作っちゃおう。竪穴式住居、ダンボールマイホーム、弥生時代の甲冑など、あなたもスタッフとして活躍しましょう。プロジェクトチームスタッフ大募集。

◆まちづくりインターンシップ受講者募集

- 期間/23年1月まで受け入れ先事業に合わせた活動
- 対象/滋賀県立大学生
- 主催・事務局/滋賀県立大学地域づくり教育研究センター Tel.0749-28-8209 秦サテライトオフィス ☎0749-26-0488 古田
- email:furuta.y@office.usp.ac.jp
- まちづくり野リーダーから学ぶ。活動現場の体験。アイデアを実践に結びつける。表現力やコミュニケーション力を身につけよう

◆田舎暮らし体験してみませんか？

- 北国街道の町家「寺吉」/長浜市木之本町木之本1033
- 木之本町杉野「さきち」/長浜市木之本町杉野2610
- 問合せ/いざない湖北定住センター 長浜市朝日町8-23 ☎0749-50-1019 FAX0749-50-1018
- http://www.cohok-style.jp/

日(日)、12月12日(日)、2月13日(日)
10:00~17:00(水・木定休)

- 場所/もりいえ滋賀県大津市伊香立下在地町478-3
- 問合せ/☎077-574-3225
- email:info@mori-ie.com
- http://www.mori-ie.com/
- http://moriekai.shiga-saku.net/
- 主催/一般社団法人安曇川流域・森と家づくりの会
- 森から始まる木の家の暮らしを学ぼう。私たちが提案するのは、自然の恵みを味わう豊かな暮らしです。ワークショップや職人の技、クリスマスパーティーまで、堪能できます。

◆めざせ家造り!!セルフビルド塾

- 日時/9月11日(土)12日(日)、10月22日(土)23日(日)、11月21日(日)。12月5日(日)。
- 場所/山里暮らし交房 風結い、滋賀県高島市安曇川町中野
- 講師/福井朝登さん(一級建築士)
- 定員/10名程度
- 料金/1回3,000円テキスト保険含む合宿追加9000円
- 申し込み/☎090-5014-1600、FAX0740-36-1661 高島市勝野1108-3
- email:musubimeeru@gmail.com
- 主催/結び目
- 自分で家を建てたい方に朗報。田舎暮らしの中で言えを立てちゃう喜びを退官してください。講師の福井さんはマキノ町で暮らす崩れかけの民家を再生したパイオニアです。

◆ニューで古民家再生塾

- 日時/9月11日(土)、18日(土)、19日(日)、10月3日(日)、9日(土)、17日(日)
- 場所/長浜市余呉町上丹生地区
- 主催/湖北古民家再生ネットワーク
- 問合せ/〒526-0056滋賀県長浜市朝日町8-23 ☎0749-50-1019 FAX0749-50-1018
- email:kominnka-nw@leto.eonet.ne.jp
- 参加費/有(18~19合宿)
- 茅葺の民家で講師の指導に夜大工体験・左官体験を通じて湖北地域独特の修繕方法を学ぼう。

◆信楽まちなか芸術祭

- 日時/10月1日(金)~11月23日(火)

豊年太鼓踊り

三山 元暎

さし絵:中川 善雄



それにしても暑い夏だった。赤々と燃える百日紅の花が、でっかい氷イチ「にみえるほじご、めらめらと暑い日が続いたのはまいった。

こんな日は、冷奴に限る。絹ごしという肌のきれいな豆腐もあるが、やはり、荒い木綿ごしのものがよい。豆腐の上におろし生姜と細かく刻ん

だミヨウガ、鯉節をかけて、生醤油で食べる。夏二番の「馳走だ。

我儘を言へる

女房や冷奴(乃太郎)

それでも、さすがにお盆を過ぎたころから、上空には秋の気配がみられるようになってきた。伊吹山の上に、絹雲がいくつも西から東へ流れていくのがみえる。日中は勢いがよかった入道雲が横に崩れて、夕方近くになると、積乱

雲(かみなりぐも)になることももある。そんな夜は、雷音は聞こえないのに稲光が空をこがす。子どもものころ、農家のお年寄りから「稲光の多い年は、この光で稲が熟するから豊作や」とよく聞かされた。今年は二年ぶりの豊作だとか。

伊吹山ろくには、日照りのときには雨乞いの歌や踊りを神に捧げ祈り、収穫の秋にはその恵みに感謝する太鼓踊りが数多く伝承されている。その代表格の朝日豊年太鼓踊りの長唄にこんな一節がある。

「桔梗きぎょう(刈)かる茅(かや)花はな薄(すすき)吾木香(か)われも(こ)萱(かや)女郎花(か)おみな(えし)御礼(ごれ)の踊りを(さ)しも(ぐれ)」

風とむつみあい、風を抱きしめる秋の草々、収穫の喜びをこれらの草々と分かち合う村びとの豊かな心情がこの歌

ににじみ出ている。いまの世の中とは比べものにならないほど貧しく乏しい時代、秋の恵みをえたときの喜びはいかばかりであったらうか。

どうも私たちは、豊かさを引き換えに貧の中にあつたかかげがえのないものを捨て去っている気がしてならない。今年もまた、太鼓踊りの季節が、すくそこにやってきた。

三山 元暎

●みやま もとあき 1940年滋賀県坂田郡山東町(現・米原市)生まれ。長浜市の理事・経済部長を経て1995年8月から2005年2月まで山東町長。同月14日米原市誕生にともない退任。真宗大谷派真勝寺住職。

●なかがわ よしお 1936年生まれ。滋賀県展、長浜市展、伊吹を描く絵画展など入賞、入選歴多数あり。税理士。

本の紹介

最近入手した、気になる本・CD・DVDをご紹介します。

BOOKS

戦争時代の子どもたち



- 著者／吉村文成
- 発行／岩波ジュニア新書
- 価格／940円十税

内容／滋賀県瀬田国民学校五年智組の学級日誌より。戦争の時代を子どもたちはいかに生きたのか。空襲や疎開、学徒動員など戦時下の暮らしのふりを子ども目の線で綴った貴重な記録。

日本でいちばん大切にしたい会社1、2



- 著者／坂本光司
- 発行／あさ出版
- 価格／1400円十税
- 内容／多くの人が泣いたビジネス書。「カンブリリア宮殿」で話題沸騰。村上龍氏が絶賛した、ミリオンセラブック。金銭・利益以外の価値、それが何なのかを示す、経営者必読の書。
- 著者／坂本光司
- 発行／ちっちゃいけど、世界一誇りにしたい会社
- 価格／1429円十税
- 内容／日本から顧客が追いかけてくる、社員30人以下の会社の8つの物語。
- 著者／淡海ネットワークセ
- 発行／ちっちゃいけど、世界一誇りにしたい会社
- 価格／1429円十税
- 内容／日本から顧客が追いかけてくる、社員30人以下の会社の8つの物語。

気楽に元気で



- 著者／坂本光司
- 発行／あさ出版
- 価格／1400円十税
- 内容／多くの人が泣いたビジネス書。「カンブリリア宮殿」で話題沸騰。村上龍氏が絶賛した、ミリオンセラブック。金銭・利益以外の価値、それが何なのかを示す、経営者必読の書。
- 著者／石毛えいこ・須田春海・坪郷寛編
- 発行／生活社
- 価格／1500円十税
- 内容／政府や会社から自由になった人々がそれぞれの価値観に基づき、自由な市民社会の実現をめざし活躍し始めた。政策リスト37を紹介。
- 著者／石毛えいこ・須田春海・坪郷寛編
- 発行／生活社
- 価格／1500円十税
- 内容／政府や会社から自由になった人々がそれぞれの価値観に基づき、自由な市民社会の実現をめざし活躍し始めた。政策リスト37を紹介。
- 著者／天野治
- 発行／愛知出版
- 価格／1200円十税
- 内容／石油ピーク後をどう生きるか
- 著者／小坂育子
- 発行／新評社
- 価格／2200円十税
- 内容／地下水脈の上に立つ針江集落。世界の注目を集める針江の「カバタ文化」を水と文化研究会事務局長の著者が聞き書き風に纏め上げた。嘉田知事や加藤登紀子氏も推薦。シリーズ近江文庫の5作目。

市民が描く社会像



ンター編、谷口浩司監修
発行／サンライズ出版
価格／1470円十税
内容／滋賀の市民社会のカタチを19の市民団体活動から紐解く。財団法人淡海文化振興事業団・淡海ネットワークセンターの10年を振り返る。

台所を川は流れる



内容／日本の変革をエネルギー収支から支援する。1970年代のローマクラブの「成長の限界」では成長のピークは2020年と予測されている。当初の予想から30年早まった。この現状をエネルギー収支から考えてみよう。



講演日記

皆様のご支援でたくさんの方の講演依頼を頂きました。2010年6月～8月の講演をダイジェスト版でお知らせします。

紀州有田商工会現地研修

- 日時平成22年6月8日
- 主催紀州有田商工会
- 対象：会員
- 目的環境先進地域の視察
- 会場長浜インキユベーションセンター、とっば村
- 講師清水陽介
- 参加30名
- 紺屋町自治会河川、溝清掃勉強会
- 日時6月13日
- 主催紺屋町自治会
- 対象自治会員
- 目的環境勉強会
- 会場覚応寺
- 演題もったいない・お

龍谷大学「現代社会と経営」

- 日時6月15日
- 主催龍谷大学国際学部
- 対象3回生
- 演題もったいない・おかげさま・ほどほどに、から始まる環境改善
- 講師辻村琴美
- 参加80名

滋賀県中小企業家同友会湖南支部6月例会

- 日時6月22日
- 主催滋賀県中小企業



家同友会湖南支部

- 対象：会員
- 目的事例報告会
- 会場草津エストピアホテル
- 演題：中小企業にしかできない持続可能型社会の企業経営
- 講師森建司
- 参加100名

平成22年淡海生涯力レッジ長浜校第2回問題発見プログラム

- 日時6月26日
- 取扱長浜市生涯学習・文化スポーツ課
- 対象受講生
- 目的学習機会
- 会場長浜市立六荘公民館レクチャールーム
- 演題M・O・Hが人間と環境を育てる
- 講師辻村琴美
- 参加40名

滋賀県立大学「市民参加論」

- 日時7月1日、8日、15日
- 主催滋賀県立大学
- 対象1年生



目的学外講師 会場滋賀県立大学 演題「持続可能社会を創る「市民参加論」I、II、III

- 講師森建司
- 参加60名
- 滋賀銀行経友会
- 日時7月20日
- 主催滋賀銀行経友会
- 対象：会員
- 会場北びわこホテルグランチエ
- 演題：内藤止明
- 講師内藤止明
- 参加40名

西地区公民館 福寿大学

- 日時8月4日

★M・O・Hストラップ★

“もう爺さん”と“うしさん”のストラップができました。滋賀県産の間伐材から作った環境に配慮した商品です。

- 問合せ：観光交流企画室TAC 中田まで
- 〒522-0072滋賀県彦根市船町6-5
- ☎0749-21-3191
- Email:nakata@tac21.com



- 主催彦根西地区公民館
- 対象城西・城北学区の高齢者
- 目的公民館事業
- 会場西地区公民館
- 演題：エコな暮らしが地域づくりにつながる
- 講師辻村琴美
- 参加70名

《M・O・Hせんりゅう》

- ♪ わが畑(はた)で とれた野菜で 幸せ朝食
長浜市 辻川 邦子 60才
- ♪ 買いたいと 思う心に 問い直す
長浜市 木下 明美
- ♪ 我らによる 我らのための エコ活動
長浜市 宮元 大輝 19才
- ♪ もう(MOH)いいよ 無駄な生活 ほどほどに
稲葉 貴士 18才
- ♪ ほどほどに くだくだ言います ほどほどに
田中 美由紀
- ♪ MyLife すべて自然の おかげさま
佐伯 幸太郎
- ♪ 草の根で 広げる 循環型社会
古河市 菅野ノハルヨ 76才
- ♪ ご近所に 涼風贈る 水を打つ
小西 寛信
- ♪ 規格外れの 食材使って 自慢料理作り
彦根市 井上 玲子 66才
- ♪ もったいない そこから芽生える エコ心
野呂 健斗 18才
- ♪ 考えよ 少しの我慢 未来の一步
中西 莞爾 18才
- ♪ ありがとう なにのおかげで 生きれてる?
甲賀市 ラングレー
- ♪ つかうだけ あふれている物 節約しよう
- ♪ みなおそう 自分のまわりの ゴミたちを
- ♪ もったいない お菓子一つに レジ袋
- ♪ 都合よい 身軽な言葉 ほどほどに
- ♪ エコエコと きゅうくつにならず ほどほどに
- ♪ おかげさま 周りの人に 感謝しよう
- ♪ ごはんまえ おとなもこどもも「いただきます」
- ♪ もったいない 実践しなきゃ 意味がない
- ♪ おかげさま 感謝をしよう この恵み
- ♪ おかげさま 感謝の心を 忘れずに!!
- ♪ 無駄遣い やってでもいいけど 知らないよ
- ♪ 冷房が きつくて上着 もったいない
- ♪ ほどほどに 流行追っても 癒しなし
- ♪ 便利でも マイカー使用は ほどほどに
- ♪ もったいない そんなに使って もったいない
- ♪ 無駄使い ほどほどにしよう もうやめよう
- ♪ 三方よし 損得ならして 皆平等
- ♪ もったいない ティッシュペーパーの 使いすぎ

世界を、こんな風に見てごらん。
いきものとおしゃべりするには、観察するのがいちばんだ。
子どものころ、ぼくは、虫と話がしたかった。
おまえどこに行くの。何を探しているの。
虫は答えられないけど、いっしょうけんめい歩いていて、
その先の葉っぱを食べはじめた。
そう、おまえ、これが食べたかったの。
言葉の代わりに、見て気がついていくことで、
その虫の気持ちがわかる気がした。
するとかわいくなる。うれしくなる。
それが、ぼくの、いきものを見つめる原点だ。
どうやって生きているのかを知りたいのだ。
おまえ、こんなことしているの。
そうなの、こういうふうに生きているの。
その物語がわかれば、すごく親しくなれる。
みな、ようよう今の環境に適応して生きている。
生きることへの深い共感、そうやって生まれ
てくる。

世界をこんなふうに見てごらん。
この本を、これからの少年少女と大人に贈る。
人間や動物を見るときにのぼくかなりのヒントをまとめたものだ。
生きているとはどういうことか、
豊かな見方をすると思う

2010年、集英社 まえがきより

【日高敏隆先生のあしあとをたどる展にて】
2010年6月17日
[主催] 日高敏隆先生に花火を贈る有志の会
[後援] 滋賀県立大学

「MC」

私のなまえはホルスタイン
今日もモシャむしゃ草を食む
いっしょにくらすあなたから
荷物を背負えといわれれば
よろこんで担ぎましょう
泥田にはいりましょう
飼いや水や身体をふいてく
れたり
おせわになつてるものね
乳をたくさんご入用?
一年2回はらみましよう
霜降り肉がお好みならば
しつかりメタボに
なりましよう
ブランドバックが
ご希望ですか
私の皮を使いなさい
角の先からテールまで
あますことなく
あなたのために
うしのよだれは高いの
教えとなつて語り継ぐ
でもねでモウね・・・
もう もう うちのモ
ホドホドに
言いたいことは胃袋の
メタン菌ごと分解します
私の名前はホルスタイン
あなたのために命を捧ぐ

「循環型社会を目指す～M・O・H通信～」の 発行に当たって

代表 森 建司

20世紀型社会は経済至上主義の時代であった。科学技術の進歩とそれに伴う工業や流通の発展は、世界的なスケールで人々に物による恩恵をもたらしたが、同時にバランスのとれた自然との共生社会を破壊した。経済至上主義とは物の豊かさを最高の幸せとして捉え、その対極にあるものの価値をほとんど消し去ろうとするものである。人々の価値観を情報操作で画一化して、特定のものに集中させようとするマーケット戦略は個人の人生観、社会観にまで侵入し、その独自性、不可侵性まで奪って行った。このことによって人々は哲学的な意味の自己をなくしてしまった。

今こそ新しい時代として循環型社会を作ろうとしているわれわれは、自己を証明する、こころとか思いを取り戻さなければならない。死生観や人生観、先祖や子孫、生涯をかける志、自己を自己らしく生き抜くための人生哲学など。そしてそれは自然との共生社会を目指すものであり、人としての真の生き様を問うものであらねばならない。

この実現のために

「循環型社会を目指す～M・O・H通信～」を発行する。

《 M・O・H通信概要 》

■目的

- (1) 循環型社会構築に向けた意識改革
- (2) 浪費型社会念の脱却
- (3) 人生哲学を学ぶ

■事業

- (1) 通信の発行及び出版
- (2) 講演会、勉強会、シンポジウムなどイベントの開催

■事務局

〒526-0111

滋賀県長浜市

川道町759-3

循環型社会システム研究所

TEL.0749-72-5277

FAX.0749-72-8681

e-mail:tsujimura@

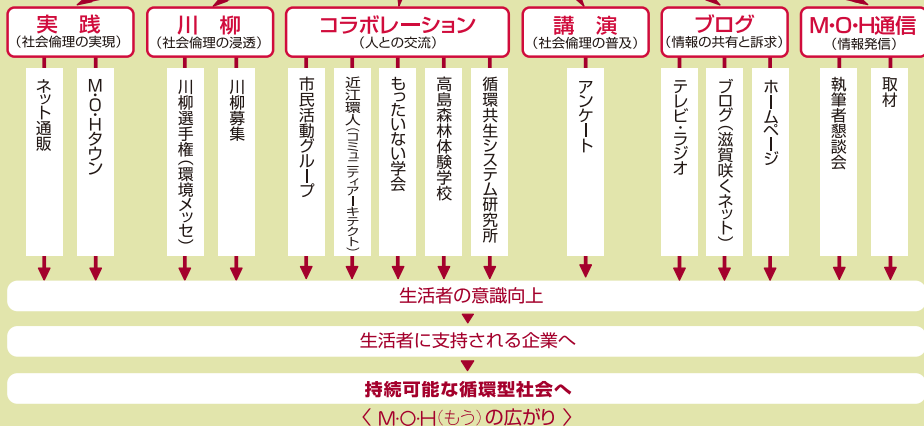
shingoshu.co.jp

代表:森 建司

担当:つじむら ことみ

[M・O・Hコンセプトシート]

M・O・H=循環型社会をめざす言葉
(もったいない・おかげさま・ほどほどに)



読者の声

★私はじめてM・O・H通信を拝読し共感しました

大津市 佐々木嘉彦 62才

★「おもちゃ病院」を通して子ども達や環境や科学、物の大切さを身につけることは素晴らしいことですね

大津市 倉世古隆生 61才

★「私の夢は…」熱く語った。あなたの夢が私の夢です

長浜市 清水和子 59才

★絶滅危惧種に認定されている「タコノアシ」という植物を種まきました

長浜市 谷水節夫

★私は何事にも感謝の気持ちを持つことが大切だと思えます

長浜市 池野なぎさ 21才

★私の仕事と共通した「和装素材の産地で洋装の美に挑む」興味深く読ませていただきました

野洲市 田中布佐恵

★里が浜ちりめん組合に加入の織物業なのでウエディングドレスの記事は興味深かったです

京都市 岸本京子

★28号の扉（西の湖の和船）の写真、いいですね。草と水の匂いが甦ってくるようです

西宮市 西本柳枝

★久しぶりに琵琶湖を見ることができました

東京都 児玉征志

★二期縁「この縁を一生に一度のもの」と心得て

栗東市 中野光一

★民生委員の講演に使わせていただきます

比叡山延暦寺 小林隆彰

★淡海生涯カレッジで講演を聞きました。おばあさんやお母さんの着物地で作った半纏をプレゼントされた話は心のこもった話ですね

長浜市 金澤吉彦

★「もう爺さんの環境絵本」をjic（日本青年会議所）主催の子ども向け「煙く滋賀の環境フェスタ2010」で一部紹介します

琵琶湖環境部 高田徹

★滋賀県の標榜する低炭素社会に向けて「M・O・H」の概念に賛同し実践できる人が増えてくればと節におもいます

k k

★日本について学ぶ、心から学ぶことが大切

野洲市 村田製作所 山田清広

★「M・O・Hの理念」が若い人の職業観やファッションに話が及んでいるところが面白い切り口ですね

彦根市 弘中史子

★いつもながら美しい紙面、構成、上手な編集ですね。温暖化オンラインドであった紙面が、落ち着いた、流行に迎合しない内面的な視点になり好感を受けます

鎌倉 石井吉徳

★素晴らしい誌面になりましたね

長浜市 野崎文字

編集後記

- 自殺予防公開講演会「生きる～いのちあってこそ～」比叡山延暦寺長膺の小林隆彰師の講演がありました。滋賀県では昨年326名の方が尊い命を絶っています。大切な命を自らの手で…。よほどの苦しみだったのでしょうか。♪生きてることに疲れたみたい♪と思うこともあります。でも…。複雑な心境です。
- 100歳以上の所在不明のお年寄りには滋賀県では0だったようです。地域のつながりがあるんですネ工。地道な草の根運動が功を奏したことが明らかです。「地域活性化」と叫んでアクションをおこすことは無駄ではありません（こと）

《次号予定》

2010年12月発行予定

■特集：絆／テーマ【町づくり】

●ギャラリー／森 哲荘（木彫り作家）

●対 談／「グリーンニューデイル」滋賀大学佐藤隆光学長＋森建司

●対 談／「快適（イキイキ）な暮らしは医療福祉から」成人病センター笹田総長＋内藤正明 進行 森建司

●座談会／「M・O・Hな町づくりとは？」

①淡路島の取組み

②三重県鈴鹿 KIESSのホッコリまちづくり

③比良里山クラブ

●レポート／「アースシップ」アメリカサンタフェ郊外タオス清水陽介

●レポート／秋の夜長を楽しむ夕べ くつき

●連載／通常通り

※ 敬称略、予告なく変更いたします

《M・O・H通信》受付中!

あなたも「M・O・H通信」を読んでみませんか。特典として、M・O・H通信、講演会のご案内をいたします。あなたの活動やこの通信についての、ご意見もお聞かせください。

fax(あれば)、e-mailアドレス(あれば)、心に残った一言をご記入の上、お申し込みください。通信をお送りします。申込書をfax、郵送、mailでお送りください。

お名前、年齢、郵便番号、住所、電話番号、

《M・O・H通信》申込書

フリガナ		年齢	希望冊数
お名前			
住所	〒		
電話	FAX	メールアドレス	
あなたの心に残った一言、MOH川柳をお書きください。			

※記入いただいた内容については、目的以外のことには使用または転用はいたしません。

キリトリ線

M・O・H通信 Vol.29 (通巻30号) 2010年9月20日発行 発行部数6,000部

●編集・発行/新江州(株)
循環型社会システム研究所
M・O・H通信編集局
代表 森建司
編集長 つじむら ことみ
編集協力 稲垣重雄
取材 細井美保
古田紀子
デザイン 伊達デザイン室
写真 辻村写真事務所
印刷 ブランセル
ホームページ ブランセル
ブログ 滋賀・咲くブログ

●執筆者懇談会
内藤 正明 畑 裕子
海東 英和 堤 幸一
山田 朝夫 進 ひろこ
下西 康嗣 中村 誠
末永 國紀 笹山 千怜
花田 眞理子 結城 美枝子
弘中 史子 松崎 和弘
今関 信子 井上 昌幸
山崎 隆 辻村 耕司
三山 元暎 佐々木 洋一
加藤 みゆき 徳永 拓美
清水 安治 山口 美知子
檀上 俊雄 岡部 達平
森 孝之 豊田 一美

(順不同・敬称略)

●ご協力
滋賀県 近江環人&環人会
琵琶湖環境科学研究 もったいない学会
センター 野洲生活学校
循環共生社会S研究所 EEネット
高島森林体験学校 中小企業家同友会
麻生里山センター (順不同)

●支援
新江州(株)
〒526-0111
滋賀県長浜市川道町759-3
TEL.0749-72-5277 FAX.0749-72-8681
★ブログ 滋賀・咲くブログ★
<http://moh.shiga-saku.net/>
★ホームページ★
<http://www.mohmoh.jp/>

※記事中の写真・本文につきましては、無断転載を禁じます。